

2012年11月1日

動物看護学教育標準カリキュラム

全国動物保健看護系大学協会

全国動物保健看護系大学協会 動物看護学教育標準カリキュラム検討委員会*

倉敷芸術科学大学	神田鉄平、前田憲孝
帝京科学大学	加隈良枝、村上洋介
ヤマザキ学園大学	鈴木友子、本田三緒子
酪農学園大学	内田英二、加藤清雄
日本獣医生命科学大学	石岡克己、松原孝子、左向敏紀（委員長）

*平成 24 年 4 月より策定すべきカリキュラムの名称を「動物看護学モデル・コア・カリキュラム」から「動物看護学教育標準カリキュラム」へと変更、それに伴い検討委員会も「動物看護学教育標準カリキュラム検討委員会」へと改称

講義科目

専門基礎分野

科目番号	科目	項目一覧	掲載頁
2-1 目標 1	動物形態機能学	6-1 4	4-8
2-1 目標 2	動物行動学	1 5-1 6	9-1 2
2-2 目標 1	動物病理学	1 7	1 3-1 6
2-2 目標 2-1	動物微生物学	1 9	1 7-1 8
2-2 目標 2-2	動物感染症学	1 9-2 0	1 9-2 0
2-2 目標 2-3	動物寄生虫学	1 9-2 0	2 1-2 2
2-2 目標 2-4	公衆衛生学	2 0	2 3-2 4
2-2 目標 3	動物薬理学	2 1-2 2	2 5-2 9
2-3-目標 1-1	動物看護関連法規<総論>	2 3	3 0-3 2
2-3-目標 1-2	動物看護関連法規<各論>	2 4	3 3-3 4
2-3-目標 1-3	動物人間関係学	2 5	3 5-3 7
2-3-目標 2-1	動物福祉学	2 5-2 7	3 8-4 1
2-3-目標 2-2	動物飼養管理学	2 5-2 7	4 2-4 3

講義科目 2-1-目標 1

動物形態機能学

全体目標

動物の生命維持の仕組みがどのようになっているかを解剖学、生理学、生化学、免疫学の面から以下の事柄について学び、生命体としての動物を理解するとともに病的状態の動物について学ぶ基盤を確立することを目標とする。

(1) 生命のすがた

一般目標：

個体の成り立ち、細胞、組織、器官、体液に関する基礎知識を修得する。

到達目標：

- 1) 細胞の構造について説明できる
- 2) DNAの働きについて説明できる
- 3) 上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について説明できる
- 4) 器官の成り立ちと維持、調整システムについて説明できる
- 5) 細胞内液、細胞外液、電解質について説明できる

(2) 血液と造血器

一般目標：

血球、血漿成分、骨髄の形態に関する基礎知識を修得する。

到達目標：

- 1) 血球成分と血漿成分について説明できる
- 2) 赤血球の構造と機能を説明できる
- 3) 白血球の構造と機能を説明できる
- 4) 血小板機能と血液凝固機序および線維素溶解を説明できる

(3) 生体の防御機構

一般目標：

外皮の構造と機能、免疫系のしくみ、体温調節に関する基礎知識を修得する。

到達目標

- 1) 皮膚断面の構造を説明できる

- 2) 皮膚、被毛、肉球、爪、乳腺について説明できる
- 3) 免疫系の基本的なしくみと働きについて説明できる
- 4) 生体防御機構について説明できる
- 5) 熱産生、熱放散および体温調節の中枢機序を説明できる

(4) 脳と神経

一般目標：

神経組織、中枢神経系および末梢神経系の構造と機能に関する基礎知識を修得する。

到達目標

- 1) ニューロンの構成、興奮の発生と伝導およびシナプス伝達を説明できる
- 2) 脳の構造と機能を説明できる
- 3) 脊髄の構造と機能を説明できる
- 4) 体性神経系の構成と機能を説明できる
- 5) 自律神経系の構成と機能を説明できる

(5) 感覚と情報伝達

一般目標：

視覚、聴覚、嗅覚、皮膚感覚、痛覚の解剖生理学に関する基礎知識を修得する。

到達目標

- 1) 眼の基本構造と機能について説明できる
- 2) 耳の基本構造と機能について説明できる
- 3) 嗅覚と味覚の基本構造と機能について説明できる
- 4) 皮膚の基本構造と機能について説明できる
- 5) 疼痛のメカニズムについて説明できる

(6) からだの支持と運動

一般目標：

骨と関節、骨格筋と運動、各部位の運動器に関する基礎知識を修得する。

到達目標

- 1) 骨格を構成する骨を説明できる

- 2) 骨の形状と構造を説明できる
- 3) 関節の構造と働きを説明できる
- 4) 骨格筋の構造を説明できる
- 5) 骨格筋の収縮機序を説明できる
- 6) 骨格筋の受容器と反射による運動調節機序を説明できる
- 7) 筋収縮のエネルギーを説明できる
- 8) 各部位を構成する骨格筋を説明できる

(7) 血液循環とその調節

一般目標：

心臓、血管系、リンパ系に関する基礎知識を修得する。

到達目標

- 1) 心臓の構造を説明できる
- 2) 心筋の性質を説明できる
- 3) 心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系を説明できる
- 4) 心臓の周期と心電図および心音を説明できる
- 5) 心臓機能の調節を説明できる
- 6) 血管の種類、およびその構造と働きを説明できる
- 7) 循環系における血圧の変化と血圧調節機構を説明できる

(8) 呼吸とその調節

一般目標：

呼吸器の構造と機能、肺でのガス交換、呼吸の調節、呼吸の比較生理学に関する基礎知識を修得する。

到達目標

- 1) 呼吸器の構造を説明できる
- 2) 換気のしくみ（吸息、呼息）を説明できる
- 3) 肺胞におけるガス交換を説明できる
- 4) 血液による酸素と二酸化炭素の運搬を説明できる
- 5) 呼吸の周期性を説明できる
- 6) 肺換気量の調節を説明できる
- 7) 鳥類や魚類の呼吸のしくみを説明できる

(9) 内分泌とホルモン

一般目標：

各種内分泌器官の構造と機能を修得する。各種ホルモンの合成・分泌とその作用に関する基礎知識を修得する。

到達目標

- 1) 内分泌を外分泌や傍分泌と区別して説明できる
- 2) ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック機能について説明できる
- 3) 内分泌系の基本構造と機能を説明できる
- 4) 視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島、消化ホルモンの機能を説明できる

(10) 消化吸収と栄養代謝

一般目標：

栄養素、摂食行動、咀嚼、嚥下、消化と吸収、代謝、肝臓の働き、栄養代謝の比較生理学に関する基礎知識を修得する。

到達目標

- 1) 炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、水について種類と機能を説明できる
- 2) 摂食行動を調節する要因とその調節機序を説明できる
- 3) 犬猫の歯列、舌について説明できる
- 4) 咽頭、食道の構造と機能を説明できる
- 5) 炭水化物の消化吸収を説明できる
- 6) タンパク質の消化吸収を説明できる
- 7) 脂肪の消化吸収を説明できる
- 8) 消化管運動を説明できる
- 9) 栄養素の代謝を説明できる
- 10) 栄養代謝における肝臓の役割を説明できる
- 11) 生体構成分子の代謝について説明できる
- 12) 生体エネルギーの生産・利用について説明できる
- 13) 代謝パターンと代謝の臓器相関について説明できる
- 14) 肝臓の働きについて説明できる

- 15) 化学反応を触媒する酵素について説明できる
- 16) 動物種ごとに必要な栄養素を説明できる
- 17) 動物種に特有な栄養代謝を説明できる

(11) 体液調節と尿の生成

一般目標：

尿の生成、細胞外液の調節、下部尿路系と排尿に関する基礎知識を修得する。

到達目標

- 1) 腎臓およびネフロンの機能的構造を説明できる
- 2) クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構を説明できる
- 3) 尿細管における再吸収と分泌を説明できる
- 4) 集合管における尿濃縮を説明できる
- 5) 細胞外液の浸透圧調節機序を説明できる
- 6) 細胞外液量の調節機序を説明できる
- 7) 膀胱の構造と神経支配、および排尿を説明できる

(12) 性と生殖

一般目標：

繁殖に関わる解剖生理学を学び、妊娠分娩の過程に関する基礎知識を修得する。

到達目標

- 1) 生殖器（雌雄）の基本構造について説明できる
- 2) 生殖機能調整に関わる主要なホルモンの名称、産生部位および標的器官を説明できる
- 3) 受胎、妊娠、分娩、産褥の過程について説明できる
- 4) 染色体、遺伝子から器官の発生メカニズムについて説明できる
- 5) フェレット、ウサギ、齧歯類、鳥類の繁殖過程について説明できる

講義科目 2-1-目標 2

動物行動学

全体目標

様々な動物種について、それぞれの種に特有な、あるいは種を超えて共通する行動様式と行動の発現機序、問題行動の原因と対処、予防法を学ぶ。動物福祉に配慮した飼養管理や獣医療を実施するための基礎となる考え方を身につけるとともに、問題行動への対処や予防に必要な知識を修得する。

(1) 動物行動学の基本概念

一般目標：

動物行動学の基本概念について理解する。

到達目標：

- 1) 行動学研究の4分野（機能・進化・機構・発達）について説明できる
- 2) 行動の進化と適応について説明できる
- 3) 種特有の行動様式について説明できる
- 4) 家畜化にともなう行動学的変化について説明できる
- 5) 生得的行動と学習行動について説明できる

(2) 個体維持行動

一般目標：

動物の個体維持行動について理解する。

到達目標：

- 1) 摂食行動および飲水行動について説明できる
- 2) 排泄行動について説明できる
- 3) 身づくろい行動について説明できる
- 4) 護身行動について説明できる

(3) 社会行動

一般目標：

動物の社会行動について理解する。

到達目標：

- 1) 集団形成と群れの社会構造について説明できる
- 2) 生殖行動（性行動・母性行動）について説明できる
- 3) 視覚・聴覚・嗅覚を用いたコミュニケーション行動について説明できる
- 4) 敵対的行動（闘争行動）について説明できる
- 5) 親和的行動（親和行動）について説明できる

（4）行動発現のしくみ

一般目標：

動物の行動発現に関わるしくみや、さまざまな物質の働きについて理解する。

到達目標：

- 1) 脳による行動の制御について説明できる
- 2) 行動の動機づけと情動の発現について説明できる
- 3) 行動に影響を与える生理活性物質（神経伝達物質、ホルモン、フェロモン）について説明できる
- 4) 行動に影響を与える環境要因（温度、季節）について説明できる

（5）行動の発達

一般目標：

犬と猫における行動の発達過程について理解する。

到達目標：

- 1) 生涯を通じた発達ステージ（新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期）と、各時期に特徴的な行動学的変化について説明できる
- 2) 遺伝的要因と環境要因が行動発達に与える影響を説明できる

(7) 学習理論と行動変容

一般目標：

動物の学習行動について理解する。

到達目標：

- 1) 行動形成について説明できる
- 2) 馴化と感作について説明できる
- 3) 古典的条件づけとオペラント条件づけについて説明できる
- 4) 学習に影響を与える因子について説明できる

(7) 問題行動の成り立ち

一般目標：

問題行動について理解する。

到達目標：

- 1) 問題行動の定義を説明できる
- 2) 問題行動の要因（遺伝的要因、生得的要因、環境要因）を説明できる
- 3) 品種や個体による問題行動の発現傾向の違いを説明できる

(8) 問題行動の修正

一般目標：

行動治療の進め方、および行動治療全般に共通する治療法について理解する。

到達目標：

- 1) 問題行動コンサルテーションの方法を理解する
- 2) 問題行動の診断と治療の進め方について理解する
- 3) 行動修正法と環境修正法の種類と適用を理解する
- 4) 行動治療における薬物療法の種類と適用を理解する
- 5) 行動治療における外科的処置およびその他の療法の種類と適用を理解する

(9) 犬と猫における主な問題行動

一般目標：

犬と猫にみられる主な問題行動の発現機序、および獣医師が指示する治療法について理解する。

到達目標：

- 1) 攻撃行動の種類、原因（動機づけ）と治療法を理解する
- 2) 恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法を理解する
- 3) 不適切な排泄行動の原因（動機づけ）と治療法を理解する
- 4) 老齢性認知機能低下の原因と主な症状、対応を理解する

(10) 問題行動の予防

一般目標：

問題行動を予防するための基礎知識を修得する。

到達目標：

- 1) 個々の飼い主と飼育環境に適した伴侶動物の選択基準および飼育上の注意点を説明できる
- 2) 十分な社会化と馴化のために必要な事項と子犬や子猫向けの社会化教室の意義を説明できる
- 3) 犬および猫に対する基本的なしつけと環境整備、ニーズについて説明できる
- 4) 問題行動を予防するために、飼い主に指導すべき事項や方法を説明できる

講義科目 2-2-目標 1

動物病理学

全体目標

さまざまな疾病がもたらす生体の変化について学び、病的状態を理解するための基盤を修得する。それを基に、病的刺激に対する細胞傷害と物質代謝異常、細胞の死、細胞の適応、組織の再生と修復、循環障害、炎症、生体防衛反応、腫瘍、先天異常について理解する。

(1) 生体反応と疾病の機序

一般目標：

生体の正常な反応と病的反応を知り、疾病の原因について理解する。

到達目標：

- 1) 疾病をおこす外因と内因について種類をあげて説明できる
- 2) バイタルサインの健康時と疾病時での変化について理解し、説明できる

(2) 生体の回復力

一般目標：

生体の恒常性を維持する神経系、内分泌系、免疫系の働きを知り、それらの異常を理解する。

到達目標：

- 1) ホメオスタシスについて理解し、疾病との関係を説明できる
- 2) 回復力に影響する局所的・全身的因子について説明できる

(3) 細胞や組織に生じる変化

一般目標：

障害に対する細胞や組織の変化を理解する。

到達目標：

- 1) 変性と物質沈着について代謝異常と結びつけて説明ができる
- 2) 壊死とアポトーシスについて機序の違いを説明できる
- 3) 萎縮の定義と原因について説明できる

(4) 増殖と修復

一般目標：

細胞や組織の増殖の機序と再生と化生、損傷の病態と治癒の過程を理解する。

到達目標：

- 1) 細胞増殖のメカニズム、再生と化生について説明できる
- 2) 肥大について原因をあげて説明でき、過形成との違いを理解できる
- 3) 創傷治癒機転の過程について説明できる
- 4) 創傷治癒に影響をおよぼす因子をあげて説明できる
- 5) 病的な損傷について説明できる
- 6) 異物処理について説明できる

(5) 循環障害

一般目標：

循環障害の原因と病態を理解する。

到達目標：

- 1) 充血とうっ血の違いを理解し、うっ血の原因による発生場所の違いを説明できる
- 2) 出血の種類と止血の機構を理解し、出血の原因と病態を説明できる
- 3) 血栓の種類と形成、転帰を説明できる
- 4) 播種性血管内凝固(DIC)の病態と診断基準について説明できる
- 5) 塞栓の種類、塞栓症の原因と病態について説明できる
- 6) 虚血と梗塞の病態を理解し、梗塞の種類をあげて説明できる
- 7) 浮腫が起こる機序について説明できる
- 8) ショックの原因と病態について説明できる

(6) 炎症

一般目標：

局所防衛反応としての炎症の概念、経過、治癒過程を理解する。

到達目標：

- 1) 炎症の定義と5大主徴を説明できる。
- 2) 炎症の原因と、反応の経過について説明できる。
- 3) 炎症に関与する細胞と、化学伝達物質(ケミカルメディエーター)を

挙げて説明できる。

- 4) 炎症の分類と形態的特徴を説明できる
- 5) 炎症の経過と治癒について説明できる
- 6) 肉芽腫性炎症の種類と特徴について説明できる

(7) 免疫異常

一般目標：

免疫介在性疾患・アレルギー疾患の原因と病態を理解し、症候、診断基準を理解する。

到達目標：

- 1) 免疫反応について説明でき、担当する細胞と役割を説明できる
- 2) アレルギー型（Ⅰ～Ⅴ）の分類と特徴を説明できる
- 3) 自己免疫疾患を説明できる
- 4) 移植に関する抗原と拒絶反応について説明できる

(8) 腫瘍

一般目標：

細胞の増殖・分化の機構とそれらの異常、腫瘍の定義と分類、発生機序、病態を理解する。

到達目標：

- 1) 腫瘍の定義と分類について説明できる
- 2) 腫瘍の原因をあげて、発生に関する機序を説明できる
- 3) 腫瘍と宿主との関係、お互いへの影響について説明できる
- 4) 腫瘍の転移様式と進行について説明できる
- 5) 動物の代表的な腫瘍の特徴を説明できる

(9) 先天異常

一般目標：

先天異常の概念と分類を理解する。

到達目標：

- 1) 遺伝要因（遺伝子異常と染色体異常）について説明できる
- 2) 環境要因の種類と胎子の発生段階との関係を説明できる
- 3) 胎子が受ける障害について説明できる

講義科目 2-2-目標 2-1

動物微生物学

全体目標

動物をとりまく環境と微生物の関係を理解するとともに、各種微生物の分類、生物学的特徴、物理化学的特徴、病原微生物と疾病、微生物制御法および微生物検査についての基本的な知識を修得し、衛生管理や微生物リスク低減措置に展開可能な知識基盤を築く。

(1) 微生物学の歴史

一般目標：

微生物学の成り立ちを歴史的に理解する。

到達目標：

- 1) 現代微生物学の祖について説明できる
- 2) 感染予防制御法や免疫学の歴史との関係について説明できる
- 3) 微生物学の発展と分子生物学との関係について説明できる

(2) 微生物の分類と特徴

一般目標：

各種微生物を識別し、それぞれの基本的特徴について理解する。

到達目標：

- 1) 各種微生物の大きさについて説明できる
- 2) 動物と微生物の関係について説明できる
- 3) 細菌（リケッチアおよびクラミジアを含む）、ウイルス（プリオンを含む）および真菌の形態、構造、代謝、増殖、遺伝、病原性について説明できる

(3) 微生物の制御

一般目標：

微生物制御の意義と方策を理解し、滅菌法や消毒法を適切に行うための知識を修得するとともに、ワクチンや抗菌薬の適正使用を理解する。

到達目標：

- 1) 滅菌の定義と意義、各種滅菌法の原理と特徴について説明できる
- 2) 消毒と滅菌の違い、消毒の意義、各種消毒法の特徴について説明できる
- 3) 抗微生物薬とその種類、薬剤耐性について説明できる
- 4) ワクチンの原理と種類、有効性と安全性、受動免疫法を説明できる

(4) 微生物学各論

一般目標：

各種病原微生物が引き起こす疾病の名称、主な宿主、特徴を修得する。

到達目標：

- 1) 細菌性疾病の原因病原体（リケッチアおよびクラミジアを含む）とその微生物学的特徴を説明できる
- 2) ウイルス性疾病の原因病原体（プリオンを含む）とその微生物学的特徴を説明できる
- 3) 真菌性疾病の原因病原体とその微生物学的特徴を説明できる
- 4) 家畜伝染病予防法に記載される疾病の病原体と宿主を説明できる

(5) 微生物検査と安全

一般目標：

微生物検査に関する基礎知識を修得し、利用することができる。また、検査の信頼性、微生物の取扱いに関するバイオセーフティを理解する。

到達目標：

- 1) 微生物染色法、顕微鏡による観察法について説明できる
- 2) 微生物培養法について説明できる
- 3) 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法について説明できる
- 4) 化学療法剤（薬剤）感受性試験について説明できる
- 5) 検体採取と取扱い、バイオセーフティについて説明できる

講義科目 2-2-目標 2-2

動物感染症学

全体目標

細菌、ウイルスおよび真菌による動物の感染症について、病因と宿主域、感染と伝播様式および感染症の成立要因などの疫学的理解、症状と生体防御などの病態変化、さらに診断と予防・治療法などの感染症対策に関する知識を修得するとともに、動物感染症の制御に関わる関連法規を学ぶ。

(1) 動物感染症の原因、感染と伝播および成立要因

一般目標：

動物感染症の原因、感染と伝播様式および感染症の成立要因に関する基本的な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 主な動物感染症の原因と宿主域を説明できる
- 2) 主な病原体の感染経路と伝播様式を説明できる
- 3) 感染症の成立要因を説明できる

(2) 動物感染症の診断検査、予防・治療法およびバイオセキュリティ

一般目標：

動物感染症の診断検査、予防および治療の種類と方法およびバイオセキュリティに関する基礎知識を修得する。

到達目標：

- 1) 罹患動物からの検査材料の採取および輸送の方法並びに主な検査方法を説明できる
- 2) 主な予防・治療法を説明できる
- 3) 動物感染症のバイオセキュリティを理解し院内感染等の予防対策を説明できる

(3) 主な動物感染症の理解

一般目標：

主な動物感染症について、関連法規における位置付け、感染と伝播様式などの疫学的特徴、症状と生体防御などの病態変化および診断と予防・治療法などの基本的な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 伴侶動物の主な感染症の特徴と関連法規における位置付けを説明できる
- 2) 産業動物の主な感染症の特徴と関連法規における位置づけを説明できる
- 3) 実験動物の主な感染症の特徴を説明できる
- 4) 野生動物の主な感染症の特徴を説明できる

講義科目 2-2-目標 2-3

動物寄生虫学

全体目標

動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基本的な基礎知識を修得するとともに、その予防対策や制御に応用できる基礎を築く。

(1) 寄生虫学の歴史

一般目標：

寄生虫学の成り立ちを歴史的に理解する。

到達目標：

- 1) 現代寄生虫学の礎について説明できる
- 2) 寄生虫症の予防制御法や疫学の歴史との関係について説明できる
- 3) 寄生虫学の発展と免疫学や分子生物学との歴史的な関係について説明できる

(2) 寄生虫の形態・生活環の特徴

一般目標

各種寄生虫を識別し、それぞれの生活環の特徴について理解する。

到達目標

- 1) 原虫類・蠕虫類（線虫類、条虫類、吸虫類）・衛生動物（ダニ類、ノミ類等）の形態について説明できる
- 2) 宿主・寄生虫の相互関係、宿主特異性について説明できる
- 3) 原虫類・蠕虫類・衛生動物の形態、生活環、感染型、感染について説明できる

(3) 寄生虫の病害・診断検査・予防法

一般目標：

寄生虫の病害、診断検査法、駆虫薬・駆除剤を適正使用、予防法について理解する。

到達目標：

- 1) 寄生虫症の特徴を説明できる
- 2) 寄生虫種別に診断・検査法が説明できる
- 3) 駆虫薬や駆除剤の適正使用を説明できる
- 4) 予防法を生活環・感染型から説明できる

(4) 人獣共通寄生虫症

一般目標：

一部の動物由来の寄生虫がヒトに感染し、幼虫移行症などの重篤な病害を引き起こすことを理解する。

到達目標：

- 1) ヒトに感染する動物由来の寄生虫を説明できる
- 2) 動物由来の寄生虫がヒトに感染した場合の症状を説明できる
- 3) 動物における日本および世界での感染状況を説明できる
- 4) 動物・ヒトに対する診断、予防法を説明できる

講義科目 2-2-目標 2-4

公衆衛生学

全体目標

ヒトと動物を取り巻く社会環境の変化に対応できる知識を身につけ、疾病予防、健康の維持・増進について関連業務に於いてその必要性や方法について明確に理解する。

(1) 獣医療と公衆衛生の概要

一般目標：

ヒトと動物が共生を目指すための、ヒトを中心とした予防衛生、健康の維持・増進について理解し、社会で実践されている公衆衛生業務について理解する。

到達目標：

- 1) 公衆衛生に於ける獣医療の役割を説明できる
- 2) 食品衛生に於ける獣医療の役割を説明できる
- 3) 環境衛生に於ける獣医療の役割を説明できる
- 4) 動物の愛護と福祉について理解し説明できる
- 5) 公衆衛生行政について理解し説明できる

(2) 公衆衛生の考え方と国民衛生の動向

一般目標：

国民衛生動向に関する統計資料を元に衛生水準について理解する。

到達目標：

- 1) 人口動態について理解し説明できる
- 2) 疾病統計について理解し説明できる
- 3) 衛生統計について理解し説明できる

(3) 疫学と疾病予防

一般目標：

疾病の発生要因、感染症について理解しその予防手段を理解する。

到達目標：

- 1) 感染の成立について理解し説明できる

- 2) 疾病・健康障害の発生要因について理解し説明できる
- 3) 疫学調査法について理解し説明できる
- 4) 予防疫学について理解し説明できる
- 5) 食品衛生と食中毒について理解し説明できる。
- 6) ズーノーシス：動物由来感染症について理解し説明できる
- 7) 狂犬病予防について正しい知識を修得し、説明できる

(4) 環境衛生と生活環境

一般目標：

自然環境と生活環境について理解し、ヒトも動物も快適に生活する為に必要な知識を修得し、問題となる点について理解する。

到達目標：

- 1) 生活環境問題について、歴史、背景、現在の問題点について説明できる
- 2) 水環境について（浄水、下水、水質汚濁）、水系感染症、有害化学物質の問題点について説明できる
- 3) 動物によってもたらされる騒音の健康障害を理解し説明できる
- 4) 動物によってもたらされる臭気 of 健康障害を理解し説明できる
- 5) 化学物質によってもたらされる健康障害を理解し説明できる
- 6) シックハウス症候群について理解し説明できる
- 7) 放射線による汚染と障害について理解し説明できる
- 8) 衛生動物によるヒトや動物への被害を理解し対策について説明できる

講義科目 2-2-目標 3

動物薬理学

全体目標

全体目標：動物の疾病の治療や診断に用いる薬が作用する過程を理解するために、対象疾患の病態、代表的な治療薬の薬理作用、機序、臨床応用および副作用を学ぶ。また、薬物の体内動態、代謝、排泄に関する基礎知識を、動物種差を含めて修得する。

(1) 動物看護師による薬物の取り扱い

一般目標：

医薬品の適正な使用のため、薬物がどのように合成され、管理され、投与されるのかについての基本的知識を修得する。また、医薬品開発における動物実験を理解し、動物実験の基本姿勢と倫理観を身につける。

到達目標：

- 1) 臨床における薬物治療の概念、目的を説明できる
- 2) 医薬品の基準に関する法規を理解し、薬物の管理方法と適正な使用法を説明できる
- 3) 新薬の開発過程と臨床治験の実施法を説明できる

(2) 動物薬理学の基礎

一般目標：

薬物の作用が発現する基本的な仕組みおよび生体内における薬の動態に関する基本的知識を修得する。

到達目標：

- 1) 薬理作用とその発現機構、作用の強さを説明できる
- 2) 薬物の化学的性質、剤型と投与方法、その特徴について説明できる
- 3) 生体内での薬物の動態（吸収、分布、代謝、排泄）について説明できる
- 4) 薬効に影響を与える因子をあげて説明できる
- 5) 有害作用を分類し、機序、動物種差を説明できる

(3) 神経系に作用する薬物

一般目標：

中枢神経および末梢神経系の解剖と機能を理解し、各神経の神経伝達物質、受容体、神経興奮にともなう作用の現れ方を理解する。その理解に基づいて中枢・末梢神経系に作用する代表的な薬（全身麻酔薬、局所麻酔薬、筋弛緩薬、鎮静薬、抗安薬、抗痙攣薬、鎮痛薬）を挙げ、基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）と動物種差に関する基本的知識を修得する。

到達目標：

- 1) 全身麻酔薬、局所麻酔薬を挙げ、基本事項を説明できる
- 2) 鎮痛薬を挙げ、基本事項を説明できる
- 3) 運動神経系に作用する薬を挙げ、基本事項を説明できる
- 4) 鎮静薬、抗けいれん薬を挙げ、基本事項を説明できる
- 5) 行動異常の治療に用いられる薬を挙げ、基本事項を説明できる

(4) 呼吸器系に作用する薬物

一般目標：

獣医領域で用いられる呼吸器系に作用する薬物（呼吸興奮薬、鎮咳薬、気管支拡張薬）の基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）と動物種差に関する基本的知識を修得する。

到達目標：

- 1) 呼吸興奮薬を挙げ、基本事項を説明できる
- 2) 鎮咳薬を挙げ、基本事項を説明できる
- 3) 気管支拡張薬を挙げ、基本事項を説明できる

(5) 循環器・泌尿器に作用する薬物

一般目標：

高血圧、心不全および不整脈の現れ方とその現れる仕組みを理解し、それらを治療するために用いられる代表的な薬物を挙げ、基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）に関する基本的知識を修得する。また、排泄臓器、血圧調節臓器としての腎臓の重要性を理解し、腎臓機能に影響を与える薬物を挙げ、基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）に関する基本的知識を修得する。

到達目標：

- 1) 血管拡張薬（降圧薬）を挙げ、基本事項を説明できる
- 2) 心不全治療薬（強心薬）を挙げ、基本事項を説明できる
- 3) 抗不整脈薬を挙げ、基本事項を説明できる
- 4) 利尿薬を挙げ、基本事項を説明できる
- 5) 抗利尿薬を挙げ、基本事項を説明できる

（6）消化器に作用する薬物

一般目標：

下痢、嘔吐および消化性潰瘍が生じるしくみを理解し、それらに関連する代表的な薬を挙げ、基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）と動物種差に関する基本的知識を修得する。また、肝臓疾患の治療に用いられる代表薬の基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）に関する基本的知識を修得する。

到達目標：

- 1) 制吐薬の基本事項を説明できる
- 2) 抗潰瘍薬の基本事項を説明できる
- 3) 消化管運動を促進する薬物の基本事項を説明できる
- 4) 止瀉薬の基本事項を説明できる
- 5) 瀉下薬の基本事項を説明できる
- 6) 肝疾患の治療に用いられる薬物の基本事項を説明できる

（7）オータコイド、代謝・内分泌系の薬物

一般目標：

代表的なオータコイドとその受容体を列挙しその作用、病気での役割を理解する。その理解に基づき代表的な薬を挙げ、基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）と動物種差に関する基本的知識を修得する。また、動物の内分泌疾患、脂質代謝異常、骨代謝異常が生じるしくみを理解し、それらに関連する代表的な薬を挙げ、基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）と動物種差に関する基本的知識を修得する。

到達目標：

- 1) 代表的なオータコイドを挙げ、基本事項を説明できる
- 2) 糖尿病の病態、代表的治療薬の基本事項を説明できる
- 3) 動物における甲状腺障害の病態、代表的治療薬の基本事項を説明できる
- 4) ステロイドホルモンの種類および代表的な基本事項を説明できる
- 5) 脂質代謝異常の病態、代表的治療薬の基本事項を説明できる
- 6) 骨代謝の異常の病態、代表的治療薬の基本事項を説明できる

(8) 血液・免疫系に作用する薬物

一般目標：

貧血が起きるしくみ、血液が凝固するしくみを理解し、それに基づいて関連する代表的な薬を挙げ、基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）と動物種差に関する基本的知識を修得する。また、生体防御反応である炎症および生体防御にかかわる免疫系のしくみを理解し、それに基づいて代表的な抗炎症薬、免疫機能調節薬を挙げ、基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）と動物種差に関する基本的知識を修得する。

到達目標：

- 1) 抗貧血薬の基本事項を説明できる
- 2) 血液凝固抑制薬の基本事項を説明できる
- 3) 血液凝固促進薬（止血薬）の基本事項を説明できる
- 4) 非ステロイド、ステロイド系の抗炎症薬の基本事項を比較説明できる
- 5) 免疫抑制薬の基本事項を説明できる

(9) 化学療法薬

一般目標：

種々の寄生虫、細菌およびウイルスによる感染症の予防、治療に用いられる代表的化学療法薬を挙げ、基本事項（薬理作用、機序、副作用、臨床応用）と動物種差に関する基本的知識を修得する。また、化学療法薬の中で特に悪性腫瘍に対するものを抗悪性腫瘍薬として薬理作用、機序、副作用、臨床応用を理解する。感染症の予防には、清潔な動物の住環境を整備することが必要となるため、代表的な殺虫薬、消毒薬についても薬理作用、機序、使用方法を理解する。

到達目標：

- 1) 消毒薬を挙げ、消毒機序、用途を説明できる
- 2) 殺虫薬を列挙し、作用機序、臨床応用、殺虫薬中毒を説明できる
- 3) 抗菌薬を作用機序で分類し、抗菌スペクトル、有効な感染症、相互作用および副作用を列挙し、説明できる
- 4) 駆虫薬（抗蠕虫薬）、抗原虫薬を列挙し、作用機序、副作用、臨床応用を説明できる
- 5) 悪性腫瘍の発生の仕組みを理解し、抗腫瘍薬を分類して作用機序、副作用、臨床応用を説明できる

講義科目 2-3-目標 1-1

動物看護関連法規〈総論〉

全体目標

動物看護師は、獣医療の高度化・多様化とこれらに対する社会的ニーズの高まりに的確に対応する動物看護を提供していくことが求められる。そのためには動物看護師は、動物看護のあらゆる場において主体的に考え、適切な動物看護を提供する能力を備えている必要がある。このような動物看護専門職としての社会的責務を自覚するとともに、動物看護師としての職業意識や価値観の形成をめざす。

(1) 動物看護活動の場

一般目標：

動物看護師が獣医療施設をはじめとする多様な動物看護の場において専門性を発揮し、多様化する社会のニーズに応えていくことの意義とあり方について理解する。

到達目標：

- 1) 獣医療施設における看護組織、看護の機能、看護活動について説明できる
- 2) 学校飼育動物等を対象とした地域動物保健における動物看護師の役割について説明できる
- 3) 地域の動物看護の課題を解決するため、関係者と協働・連携することの必要性について説明できる

(2) 獣医療提供体制

一般目標：

社会における獣医療の提供に関して、獣医療施設そのものというハード面と、適切な獣医療を確保するための業務のあり方というソフト面から理解する。

到達目標：

- 1) 社会における獣医療施設の機能、一次獣医療施設・高度獣医療施設それぞれの役割および連携の必要性について説明できる
- 2) 救急獣医療の充実の必要性について、獣医療の特性を踏まえて説明できる

- 3) 診療録の作成・保存義務、守秘義務と個人情報の保護、情報公開の意義について説明できる
- 4) 動物用医薬品・動物用医療機器の、法に基づく適切な取り扱いについて説明できる
- 5) 毒薬・劇薬・麻薬・向精神薬の、法に基づく適切な取り扱いについて説明できる
- 6) 廃棄物の、法に基づく適切な取り扱いについて説明できる

(3) 他職種との連携

一般目標：

獣医療においては多職種が多段階の獣医療業務に関与していることを理解する。その上で、動物や飼い主にとって最適な獣医療を効率的に提供するため、動物看護師がチーム獣医療の調整役となることの重要性を理解する。さらに、獣医療上の事故（院内感染を含む）は日常的に起こる可能性があることを認識し、事故を防止するためには組織的なリスク管理が必要であることを理解する。

到達目標：

- 1) 獣医療に携わる関連職種について説明できる
- 2) 組織の中での役割分担のあり方について説明できる
- 3) チーム獣医療の中での動物看護師の役割について説明できる
- 4) チーム獣医療の中での、他職種との相互の尊重、連携、協働について説明できる
- 5) 獣医療上の事故の基本的予防策、事故発生時の緊急処置や記録、報告について説明できる

(4) 動物看護職の社会的立場

一般目標：

動物看護師の地位の発展と向上のために、専門性を発展させていくこと、および自己研鑽と生涯学習を継続することの重要性について理解する。また、動物看護師の社会人としてのあり方および責任について理解する。

到達目標：

- 1) 動物看護職の社会的地位のあり方について自分なりの考えを持ち、説明できる
- 2) 国内外の動物看護・動物保健の動向に関心をよせ、国際協力の必要性や課題について説明できる
- 3) 職場における労働安全衛生について動物看護師が果たすべき義務について説明できる
- 4) 動物看護師が遭遇する可能性がある危険（事故、感染等）の防止法と、発生時の対処法について説明できる

講義科目 2-3-目標 1-2

動物看護関連法規〈各論〉

全体目標

動物の支援に関わる動物看護師として、動物関連法規について知り、その中に動物看護を位置づけてとらえる。また、広く動物や環境に関する法規を学ぶことを通じて、これらに対する関心と理解を深め、さらに社会へと視野を広げていくことを目指す。

(1) 獣医事行政法規

一般目標：

獣医事行政法規のうち、動物看護業務に関連する法規について、その種類と概要を理解する。

到達目標：

- 1) 獣医師法について、概要を説明できる
- 2) 獣医療法について、概要を説明できる

(2) 家畜衛生行政法規

一般目標：

家畜衛生行政法規のうち、動物看護業務に関連する法規について、その種類と概要を理解する。

到達目標：

- 1) 家畜伝染病予防法について、概要を説明できる
- 2) 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律（ペットフード安全法）について、概要を説明できる

(3) 公衆衛生行政法規

一般目標：

公衆衛生行政法規のうち、動物看護業務に関連する法規について、その種類と概要を理解する。

到達目標

- 1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）について、概要を説明できる

- 2) 狂犬病予防法について、概要を説明できる
- 3) 身体障害者補助犬法について、概要を説明できる

(4) 薬事行政法規

一般目標：

薬事行政法規のうち、動物看護業務に関連する法規について、その種類と概要を理解する。

到達目標：

- 1) 薬事法について、概要を説明できる
- 2) 麻薬及び向精神薬取締法について、概要を説明できる
- 3) 覚せい剤取締法について、概要を説明できる

(5) 環境行政関連法規

一般目標：

環境行政関連法規のうち、動物看護業務に関連する法規について、その種類と概要を理解する。

到達目標：

- 1) 動物の愛護及び管理に関する法律について、概要を説明できる
- 2) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）について、概要を説明できる
- 3) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）について、概要を説明できる
- 4) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）について、概要を説明できる
- 5) 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護法）について、概要を説明できる
- 6) 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）について、概要を説明できる
- 7) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）について、概要を説明できる

講義科目 2-3-目標 1-3

人と動物の関係学

全体目標

動物が人間社会において果たしている多面的な役割とその背景について知り、人と動物の関係に関する歴史的、そして現在における心理学的・社会的側面の全体像を理解する。また、動物介在活動・療法・教育や、現在における使役犬の代表である身体障害者補助犬の現状と効果について理解する。

(1) 人と動物の関わりの歴史

一般目標：

人と動物の多面的な関わりについて、古代から現在に至るまでの代表的なできごとや考えを理解する。

到達目標：

- 1) 動物の収集・飼育・利用の歴史について説明できる
- 2) 文学・芸術における動物の表現について説明できる
- 3) 西欧と日本での動物との関わりの歴史について説明できる

(2) 現代の人と動物の関わり

一般目標：

人と動物の多面的な関わりの現状と理論的基盤について理解する。

到達目標：

- 1) 動物の飼育と利用の現状について説明できる
- 2) 人と動物の協働の種類について説明できる
- 3) 動物の介在が与える人への生理学的影響を説明できる
- 4) 動物の介在が与える人への身体的影響を説明できる
- 5) 動物の介在が与える人への心理的影響を説明できる

(3) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育

一般目標：

動物介在活動と動物介在療法、動物介在教育の概要を理解する。

到達目標：

- 1) 動物介在活動と動物介在療法、動物介在教育の定義を説明できる
- 2) 動物介在活動と動物介在療法、動物介在教育の歴史と現状を説明できる
- 3) 動物介在活動と動物介在療法、動物介在教育を実施する際の安全管理について説明できる
- 4) 動物介在活動と動物介在療法、動物介在教育について、使用動物と実施者、および実施施設の適性評価の概要を説明できる

(4) 使役動物

一般目標：

動物の力や嗅覚など感覚を利用して人間のために使役される動物について理解する。とくに法律でも規定される身体障害者補助犬について理解する。

到達目標：

- 1) 様々な使役動物の歴史と福祉について説明できる
- 2) 補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）の定義、歴史と現状を説明できる
- 3) 補助犬の育成過程や特徴を説明できる
- 4) 補助犬の適性および施設や社会の受け入れ体制の概要を説明できる
- 5) その他の使役犬（災害救助犬、警察犬、探知犬など）の種類と特徴、および現状を説明できる

(5) ペットの飼育

一般目標：

ペット飼育の現状と問題点を知り、ペット飼育者の心理に関する問題を理解する。

到達目標：

- 1) 人間が動物をペットとして飼育するさまざまな理由を説明できる
- 2) ペット飼育の現状を説明できる
- 3) ペットの適正飼育を推進するために必要な対策を説明できる
- 4) ペットへの依存の心理について説明できる
- 5) ペットロスの定義と対策について説明できる

(6) 動物虐待

一般目標：

動物虐待の定義と現状を知り、問題点を理解する。

到達目標：

- 1) 人間が動物を虐待するさまざまな理由を説明できる
- 2) 動物虐待の定義（積極的な虐待とネグレクト）を説明できる
- 3) 動物虐待の現状を説明できる
- 4) 動物虐待の問題点および対策について説明できる

(7) 野生動物保全

一般目標：

野生動物保全の現状と、その背景となる社会情勢について理解する。

到達目標：

- 1) 野生動物が関わる問題と保全の概要を説明できる
- 2) 飼育下繁殖と動物園の役割を説明できる
- 3) 野生動物救護獣医療の概要を説明できる

(8) ペット産業の現状

一般目標：

ペット産業の現状と、その背景となる社会情勢や課題について理解する。

到達目標：

- 1) ペット飼育の経済的背景を説明できる
- 2) ペット産業の種類と内容を説明できる
- 3) ペット産業の最近の動向を説明できる
- 4) ペット産業の問題点や今後の課題を説明できる

講義科目 2-3-目標 2-1

動物福祉学

全体目標

獣医療、動物愛護、動物福祉、社会奉仕などの分野に動物看護師として貢献するうえで必要な基本理念としての動物福祉の考え方を理解する。人間社会における動物の取り扱いに関する考え方と、それらに影響する要因、および様々な実践的活動について理解する。

(1) さまざまな動物観と影響要因

一般目標：

人と動物の多面的な関わりについて、古代から現在に至るまでの代表的な出来事について理解する。

到達目標：

- 1) 動物観の歴史的変遷を説明できる
- 2) 国や宗教による動物観の違いと動物の取り扱いへの影響について説明できる
- 3) 動物観に影響を与える他の要因について説明できる
- 4) 動物生命倫理の基本概念について説明できる

(2) 動物福祉の概念

一般目標：

動物福祉の定義とその理論的基盤について理解し、他の動物の取り扱いに関する思想との相違点を理解する。

到達目標：

- 1) 動物福祉の定義と理論的基盤としての功利主義について説明できる
- 2) 「5つの自由」を説明できる
- 3) 近代および現代の動物愛護運動について説明できる
- 4) 日本における動物愛護と世界における動物福祉の違いを説明できる
- 5) 「動物の権利」思想と「動物福祉」思想の違いを説明できる

(3) 動物福祉の評価

一般目標：

動物福祉の評価方法に関する基本知識を修得する。

到達目標：

- 1) 動物福祉の生理学的指標の種類と測定方法を説明できる
- 2) 動物福祉の行動学的指標の種類と測定方法を説明できる
- 3) 各種動物における動物福祉の評価の必要性和、その結果にもとづく改善方法について説明できる

(4) 動物福祉と社会

一般目標：

動物福祉向上の実践と社会とのかかわりに関する基本知識を修得する。

到達目標：

- 1) 動物福祉に関する法と行政の仕組みの概要を説明できる
- 2) 動物福祉へ及ぼす経済の影響について説明できる
- 3) 動物福祉教育の意義と方法について説明できる
- 4) 動物保護活動の現状と課題について説明できる

(5) 野生動物の福祉

一般目標：

野生動物の利用や管理における福祉的配慮に関する基本知識を修得する。

到達目標：

- 1) 野生動物の価値と利用および管理の現状を説明できる
- 2) 野生動物の管理において福祉上の問題となる点を説明できる
- 3) 野生動物の福祉向上のために行われている対策を説明できる

(6) 展示動物および使役動物の福祉

一般目標：

展示動物や身体障害者補助犬などの使役動物の取り扱いにおける福祉的配慮に関する基本知識を修得する。

到達目標：

- 1) 動物園水族館等における動物展示の意義と現状を説明できる
- 2) 展示動物や使役動物において福祉上の問題となる点を説明できる
- 3) 展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と意義を説明できる

(7) 実験動物の福祉

一般目標：

実験動物の取り扱いにおける福祉的配慮に関する基本知識を修得する。

到達目標：

- 1) 動物実験の意義と現状を説明できる
- 2) 実験動物において福祉上の問題となる点を説明できる
- 3) 3Rの概念と具体的方法を説明できる

(8) 産業動物の福祉

一般目標：

食品等の生産のために飼育される産業動物の取り扱いにおける福祉的配慮に関する基本知識を修得する。

到達目標：

- 1) 産業動物の飼育および畜産物の生産と流通の現状を説明できる
- 2) 産業動物において福祉上の問題となる点を説明できる
- 3) 国際的な福祉基準について説明できる
- 4) 産業動物の福祉を向上させるための具体的方法を説明できる

(9) 伴侶動物の福祉

一般目標：

主に家庭で飼育される伴侶動物の取り扱いにおける福祉的配慮に関する基本知識を修得する。

到達目標：

- 1) 伴侶動物の飼育の現状を説明できる
- 2) 伴侶動物において福祉上の問題となる点を説明できる
- 3) 動物保護活動についての海外および日本での現状を説明できる
- 4) 飼育放棄や放棄動物の殺処分問題、それに対する対策について説明できる
- 5) 動物虐待の発見と評価の方法について説明できる
- 6) 伴侶動物の適正な飼育管理方法を説明できる
- 7) 飼育動物の災害時の対応について理解し、説明できる

講義科目 2-3-目標 2-2

動物飼養管理学

全体目標

人間社会に関わりの深いさまざまな動物種（伴侶動物、産業動物、実験動物）の分類学的、解剖学のおよび生理学的特徴を学習する。また動物種ごとおよび品種ごとの飼養管理、ライフステージごとの飼養管理について理解する。

（１）伴侶動物学

一般目標：

伴侶動物（犬、猫、ウサギ、げっ歯類、フェレット、馬、飼鳥、爬虫類）の歴史・特性・現状、特徴、品種ごとの特徴、飼育状況・方法、活用法についての知識を修得する。

到達目標：

- 1) 各動物種の歴史と現在の飼育状況、および活用法を説明できる。
- 2) 犬および犬の代表的な品種の特徴と飼養管理を説明できる。
- 3) 猫および猫の代表的な品種の特徴と飼養管理を説明できる。
- 4) 馬および代表的な馬の品種の特徴と飼養管理を説明できる。
- 5) ウサギおよび代表的なウサギの品種の特徴と飼養管理を説明できる。
- 6) 代表的なエキゾチックアニマル種（飼鳥、爬虫類を含む）の特徴と飼養管理を説明できる。

（２）産業動物学

一般目標：

産業動物（牛、馬、豚、羊、山羊、鶏）の歴史・特性・現状、飼育状況・方法、畜産物の生産と流通、福祉についての知識を修得する。

到達目標：

- 1) 各種動物の歴史、人間との関係を説明できる
- 2) 各種動物の解剖学的、生理学的特性を説明できる
- 3) 各種動物の主要な品種、品種ごとの特性、現状を説明できる
- 4) 各動物のライフステージごとの食性、飼料、飼養管理を説明できる
- 5) 各種動物に多い疾病、施される獣医療、そのときの看護法を説明できる

(3) 実験動物学

一般目標：

動物実験の意義を正しく理解し、教育研究等に利用される代表的な実験動物の特性ならびに適正な飼育管理法についての知識を修得する。

到達目標：

- 1) 動物実験の歴史について正しく説明できる
- 2) 代表的な実験動物の基本的な取り扱い（保定、性別判定、個体識別、採血、採尿、投与など）を説明できる
- 3) 動物実験成績に影響を与える物理化学的、生物学的、栄養学的因子を説明できる
- 4) 動物種、品種、系統の概念を説明できる
- 5) 代表的な実験動物（ラット、マウス、ウサギ、モルモット、ハムスター、サルなど）の飼育管理、繁殖法を説明できる
- 5) 疾患モデル動物の歴史と現状を理解し、医学生物学研究における疾患モデル動物の位置づけが説明できる
- 6) 動物実験代替法について説明できる

講義科目
専門分野 I

科目番号	科目	項目一覧	掲載頁
3-1-目標 1	基礎動物看護学	2 9-3 0	4 5-4 7
3-1-目標 2-1	基礎動物看護技術 I	3 1-3 2	4 8
3-1-目標 2-2	動物栄養管理学	3 2-3 3	4 9-5 2
3-1-目標 3	動物臨床検査学	3 4-3 7	5 3-5 7
3-1-目標 4	基礎動物看護技術 II	3 8-4 2	5 8-6 4
3-1-目標 5	動物外科看護技術	4 3-4 4	6 5-6 7

講義科目 3-1-目標 1

基礎動物看護学

全体目標

実践的な動物看護学を学ぶ前に、その基礎となる概念についての理解、さらには様々な動物看護活動の場についての理解や、他職種との関連において動物看護の果たす役割についての理解を修得する。

(1) 動物看護の基本となる概念

一般目標：

動物看護の基本となる概念—動物・環境・健康・動物看護・人間—を基にして、獣医療・保健・福祉のなかで動物看護の果たす役割を理解し、動物看護について考え探求する姿勢を修得する。

到達目標

- 1) 動物看護の本質を説明できる
- 2) 動物看護の概念を説明できる
- 3) 動物看護者の倫理綱領を説明できる
- 4) 動物にとっての健康・福祉・Quality of life; QOL を説明できる
- 5) 動物看護の対象としての動物とそれに影響を与える環境を総合的に説明できる
- 6) 獣医療・保健・福祉のなかで動物看護の果たす役割を説明できる
- 7) 動物看護を探求する姿勢を修得する

(2) 動物看護過程の展開

一般目標

動物看護を系統的・科学的に行うために必要な動物看護過程の原理と方法について理解する。

到達目標

- 1) 動物看護過程の目的や意義を理解し、動物看護を展開するための方法を説明できる
- 2) 動物看護過程のステップについて説明できる
- 3) 動物看護過程におけるアセスメントについて説明できる

- 4) 動物看護過程における情報の整理と解釈が説明できる
- 5) 動物看護過程における全体像の把握と関連図について説明できる
- 6) 動物看護過程における問題の明確化について説明できる
- 7) 動物看護過程における計画立案について説明できる
- 8) 動物看護過程における実施について説明できる
- 9) 動物看護過程における評価について説明できる

(3) 動物看護学の成立と特徴

一般目標

動物看護学とは何か、現代の動物看護学の発展段階を知り、これからの動物看護と動物看護学を考えることができる。

到達目標

- 1) 動物看護とはなにか、社会的イメージや語彙の意味から説明できる
- 2) 動物看護に対する考え方の変遷を社会的変化との関連から説明できる
- 3) 動物看護の考え方と動物看護の発展段階を説明できる
- 4) 獣医療とヒト医療を比較しながら、獣医療を提供するシステムを説明できる
- 5) 獣医療を提供するシステムの中で機能する動物看護を説明できる
- 6) 動物看護の研究の必要性を説明できる
- 7) 動物看護教育の目的・研究方法を説明できる
- 8) 動物看護学について学んだ内容を今後の動物看護学研究にどのように活かすか説明できる

(4) 看護の役割と機能を支えるしくみ

一般目標：

動物看護の役割を理解し、施設から家庭へと継続看護を実践するための知識を修得する。

到達目標：

- 1) 施設内から在宅への継続の必要性を説明できる
- 2) 家庭での継続看護を視野に入れた退院計画および退院指導について説明できる
- 3) 動物の状態の経時的変化や反応に対する継続看護について説明できる

（５）動物看護管理

一般目標：

動物看護管理の対象とその実践範囲について理解し、組織における良質な動物看護の提供するための知識を修得する。

到達目標：

- 1) 組織における看護提供システム（チームナーシング、プライマリナーシング、機能別看護）について説明できる
- 2) 動物看護管理におけるケアの標準化（クリティカルパス）について説明できる
- 3) 組織の効率化を高める技術としてのリーダーシップと獣医療チームの一員としてのメンバーシップについて説明できる
- 4) 獣医療の安全管理体制としての事故管理・防止システムについて説明できる

（６）専門職能団体の活動

一般目標：

動物看護管理の視点から専門職集団としての役割と機能を理解し、専門職能団体の活動の必要性を認識できる。

到達目標

- 1) 動物看護職の実践活動に関する行政組織を説明できる
- 2) 動物看護と関する専門機関や職能団体について説明できる
- 3) 獣医療・動物福祉関連の動向を説明できる

講義科目 3-1-目標 2-1

基礎動物看護技術 I

全体目標

動物のくらしや様々な環境条件を踏まえた上で、動物の適切な飼養方法を理解するだけでなく、疾病予防も含めて動物の健康を保持し、衛生的かつ安全に飼養管理するための知識を修得する。

(1) 動物の健康保持

一般目標：

動物の健康管理および疾病予防の方法を理解し、様々な環境条件に応じた飼養飼育管理について知識を修得する。

到達目標：

- 1) 動物の健康管理および疾病予防の方法について説明できる
- 2) 動物種や動物の状態に適した環境条件を説明できる
- 3) 動物の状態に応じた入院室やケージを整備することができる

(2) 衛生・安全管理

一般目標：

感染を予防するための技術および安全を守るための技術を修得する。

到達目標：

- 1) 洗浄・消毒・滅菌を理解し、感染症予防を説明できる
- 2) 検疫・隔離について説明できる
- 3) 感染コントロールについて説明できる
- 4) 安全管理対策について説明できる
- 5) 動物飼養管理中の事故の防止について説明できる

講義科目 3-1-目標 2-2

動物栄養管理学モデル・コア・カリキュラム

全体目標

6大栄養素の種類、構造、生理作用を理解し、犬猫に栄養特性、ライフステージを理解し、その栄養管理について理解する。健常状態、ライフステージ別、疾病時のエネルギー要求量を理解し、その要求量の算定式を修得する。ペットフードの種類、原料、製造方法、保存方法等および法令の概要を理解する。栄養補助・管理が必要な主要疾患の病態を理解し、栄養管理技術の理論を理解する。

(1) 犬猫の基礎栄養

一般目標：

6大栄養素である炭水化物、脂質、蛋白質、ビタミン、ミネラル、水について、種類、構造、生理作用を理解する。犬猫の食性、摂食行動、嗜好性、摂食量、飲水量、ライフステージについての知識を修得し、栄養管理を理解する。

到達目標：

- 1) 炭水化物（糖質）、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルの供給源、含まれる食物、生理作用について説明できる
- 2) 炭水化物（糖質）、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルの過剰症、欠乏症について説明できる
- 3) 犬猫の食性、摂食行動、嗜好性、異嗜、摂食量、飲水量を説明できる。動物による栄養成分が異なることが説明できる
- 4) ライフステージ特に成長期、老齢期、繁殖期、妊娠期、授乳期の栄養管理について特徴を説明できる
- 5) 中毒物、与えてはいけないものについて説明できる
- 6) 食物繊維の作用を説明できる

(2) 栄養評価法

一般目標：

動物種、ライフステージ、エネルギー状態（肥満・飢餓）ごとのエネルギー要求量ならびに食物繊維についての知識を修得し、算出される要求量の意義を理解する。

到達目標：

- 1) エネルギー要求量（Resting Energy Requirement; RER（安静時エネルギー要求量）、Maintenance Energy Requirement; MER（維持期エネルギー要求量）など）を説明できる
- 2) 猫、犬種によるライフステージが説明でき、栄養要求量の違いを説明できる
- 3) Association of American Feed Control Officials; AAFCO（米国飼料検査官協会）の栄養プロファイル、National Research Council; NRC（米国国家研究協議会）の飼養標準、栄養状態の評価法（体重、Body condition score; BCS、体脂肪測定、血液検査）を説明できる

(3) フード

一般目標：

ペットフードの歴史、種類、原料、製造方法を理解するとともに、法令について理解する。

到達目標：

- 1) ペットフードに含まれる成分と働きについて説明できる
- 2) ドライフードとウェットフードの製造方法について説明できる
- 3) 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律（ペットフード安全法）の概要を説明できる
- 4) ペットフードに含まれてはならないものを説明できる
- 5) ペットフードのラベル表示について説明できる
- 6) 主要なサプリメントの可能性のある作用と効用について説明できる

(4) 栄養指導

一般目標：

栄養指導のための種々の情報の収集方法、判断方法、計算方法、保存方法を理解し、飼い主への説明すべき知識を修得する。

到達目標：

- 1) 栄養状態の確認方法を説明できる
- 2) 栄養に関する情報の収集方法、およびフード表示を理解し説明できる
- 3) 減量方法、減量時のエネルギー状態、プログラムを説明できる
- 4) フードの保存方法を理解し説明できる

(5) 疾患と栄養の関係

一般目標：

栄養補助・管理が必要な主要疾患の病態を理解し、栄養管理技術の理論を理解する。

到達目標：

- 1) 腎疾患における病態を理解し、食事性増悪因子・改善因子、食事療法を説明できる
- 2) 各種尿石症における生成要因・病態を理解し、食事性増悪因子・改善因子、食事療法を説明できる
- 3) 心血管系疾患における病態を理解し、食事性増悪因子・改善因子、食事療法を説明できる
- 4) 各種消化器疾患の病態を理解し、食事性増悪因子・改善因子、食事療法を説明できる
- 5) 肝疾患の病態を理解し、食事性増悪因子・改善因子、食事療法を説明できる
- 6) 糖尿病の病態を理解し、食事性増悪因子・改善因子、食事療法を説明できる
- 7) 各種皮膚疾患・アレルギー疾患の病態を理解し、食事性増悪因子・改善因子、食事療法を説明できる
- 8) 口腔衛生向上のためのフードについて説明できる

(6) 栄養管理

一般目標：

経腸あるいは経静脈による栄養補給の必要な症例に対し、適切な投与経路、投与方法を選択できると共に、その手技、投与内容物の調整法、栄養バランスをについて理解する。

到達目標：

- 1) 非経腸栄養法の必要な疾病について理解しその方法を説明できる
- 2) 経口栄養剤の成分と利用法について説明できる
- 3) 経胃栄養剤と経腸栄養剤の相違と、それぞれの成分および利用法について説明できる
- 4) 設置したカテーテルの維持管理方法を説明できる
- 5) 食事管理失宜による疾病による症状および対応方法を説明できる

講義科目 3-1-目標 3

動物臨床検査学

全体目標

臨床現場で実施されている様々な臨床検査の原理、方法ならびに意義を理解する。検体や測定機器の正しい扱い方を修得し、所見の記録方法についても修得する。

(1) 臨床検査の基礎

一般目標：

臨床検査における動物看護師の役割を理解し、検査を行うために必要な基礎知識を修得する。

到達目標：

- 1) 臨床検査における動物看護師の役割を説明できる
- 2) 基準値、感度、特異度について説明できる
- 3) 顕微鏡や遠心分離器の扱い方を説明できる

(2) 血液検査

一般目標：

血液検査の原理と方法、意義を理解する。

到達目標：

- 1) 採血部位、採血方法について説明できる
- 2) 血漿、血清の分離法について説明できる
- 3) 全血球計算法 (Complete blood count; CBC) について説明できる
- 4) 血液塗抹の作製法と染色法について説明できる
- 5) 塗抹標本の観察法について説明できる
- 6) ヘマトクリット管を用いた検査について説明できる
- 7) 凝固検査の目的と意義について説明できる
- 8) 血液生化学検査の目的と意義について説明できる
- 9) 血液ガス検査の目的と意義について説明できる
- 10) 免疫学的検査の目的と意義について説明できる

(3) 尿検査

一般目標：

尿検査の原理と方法、意義を理解する。

到達目標：

- 1) 採尿法を説明できる
- 2) 尿の性状検査について説明できる
- 3) 尿沈渣について説明できる

(4) 糞便検査

一般目標：

糞便検査の原理と方法、意義を理解する。

到達目標：

- 1) 採便法を説明できる
- 2) 虫卵・原虫の検出法について説明できる
- 3) 細菌の観察法について説明できる

(5) 細胞診と病理組織検査

一般目標：

細胞診断および病理組織検査の原理と方法、意義を理解する。

到達目標：

- 1) 細胞診断の目的と意義について説明できる
- 2) 細胞採取の方法について説明できる
- 3) 組織標本の作製法と検体処理法について説明できる

(6) 遺伝子検査

一般目標：

遺伝子検査の原理と方法、意義を理解する。

到達目標：

- 1) 遺伝子検査の目的と意義について説明できる
- 2) 遺伝子検体の採取法について説明できる
- 3) 遺伝子検査の限界について説明できる

(7) 心電図と血圧

一般目標：

心電図検査および血圧測定の原理と方法、意義を理解する。

到達目標：

- 1) 心電図検査の目的と意義について説明できる
- 2) 心電図検査の実施方法について説明できる
- 3) 血圧測定の方法と意義、注意点について説明できる

(8) X線検査

一般目標：

X線検査の原理と方法、意義を理解する。

到達目標：

- 1) X線検査の目的と意義について説明できる
- 2) X線検査の実施方法、撮影体位について説明できる
- 3) 造影検査について説明できる
- 4) フィルムの現像について説明できる
- 5) 透視撮影、コンピュータX線撮影法 (Computed Radiography; CR、Digital Radiography; DR) について説明できる
- 6) 被ばくの問題点と被ばく管理法について説明できる

(9) 超音波検査

一般目標：

超音波検査の原理と方法、意義を理解する。

到達目標：

- 1) 超音波検査の目的と意義について説明できる
- 2) 超音波検査の実施方法、保定体位について説明できる
- 3) Bモード、Mモード、ドップラー法について説明できる

(10) 内視鏡検査

一般目標：

内視鏡検査の原理と方法、意義を理解する。

到達目標：

- 1) 内視鏡検査の目的と意義について説明できる
- 2) 内視鏡検査の実施方法、準備事項について説明できる
- 3) スコープの洗浄・消毒法について説明できる

(11) その他の画像検査

一般目標：

コンピュータ断層撮影法、磁気共鳴画像法、ポジトロン断層撮影法検査等の原理と方法、意義を理解する。

到達目標：

- 1) コンピュータ断層撮影法 (Computed tomography; CT) について説明できる
- 2) 磁気共鳴画像法 (Magnetic resonance imaging; MRI) について説明できる
- 3) ポジトロン断層撮影法 (Positron emission tomography; PET) とシンチグラフィについて説明できる

(12) 神経学的検査

一般目標：

神経学的検査の方法と意義を理解する。

到達目標：

- 1) 姿勢反応と脊髄反射について説明できる
- 2) 脳神経の検査法について説明できる
- 3) 神経学的検査の評価記録法について説明できる

(13) 眼科検査

一般目標：

眼科検査の方法と意義を理解する。

到達目標：

- 1) シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について説明できる
- 2) 眼圧測定の方法と意義について説明できる
- 3) 眼底検査の方法と意義について説明できる

(14) 皮膚と耳の検査

一般目標：

皮膚および外耳道検査の方法と意義を理解する。

到達目標：

- 1) 皮膚病変の観察、記録法について説明できる
- 2) 皮膚搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査の方法と意義について説明できる
- 3) 皮膚生検の方法と意義について説明できる
- 4) ウッド灯検査、真菌培養法について説明できる
- 5) 外耳道の検査方法と意義について説明できる

講義科目 3-1-目標 4

基礎動物看護技術Ⅱ

全体目標：

多岐にわたる動物看護技術を見通し、それぞれの実践に必要な知識および論理的思考を修得する。そして、これらの技術が、安全と安楽に基づいた動物看護を実践するためにいかに必要なのかを理解する。さらに、診察や治療・検査における様々な処置等を適切に実践あるいは補助するために必要な知識を修得する。

(1) 対人関係の技術

一般目標：

適切な動物看護を提供するために必要となる対人関係に関わる知識を修得する。

到達目標：

- 1) 人間関係を成立し発展させるための技術について説明できる
- 2) 人間の成長を促すための技術について説明できる
- 3) 職場におけるコミュニケーションへの関与について説明できる
- 4) 飼い主および顧客への伴侶動物に関する情報提供技術（しつけ、グルーミング、繁殖、動物関連製品、サービス等）について説明できる
- 5) グリーフマネージメント（ペットロス・安楽死等）について説明できる
- 6) 接遇マナースキルについて説明できる
- 7) 在宅治療（往診）における対応について説明できる
- 8) 動物医療保険の対応について説明できる
- 9) コミュニケーションならびにカウンセリングに関わる技術について説明できる

(2) 対動物関係の技術

一般目標：

適切な動物看護を提供するために必要となる対動物関係に関わる知識を修得する。

到達目標：

- 1) 動物種ごとのコミュニケーションについてに応じた適切な接し方について説明できる
- 2) 安全な散歩・運動技術を説明できる
- 3) ハンドリングと保定法の基本的事項について説明できる
- 4) 動物種・動物の状態・処置や検査に合わせた保定法を説明できる
- 5) 動物にとっての安楽な姿勢・糞法について説明できる

(3) 観察および記録・報告に関わる技術

一般目標：

看護の対象となる動物を観察し、それに基づいてアセスメントを実施するために必要な知識を修得する。さらに、それらを適切に報告し、記録するための知識を修得する。

到達目標：

- 1) 身体面のアセスメント（フィジカルアセスメント：体温、脈拍・血圧・呼吸・意識・身体計測・全身の外観・体重・Body condition score; BSC・体表リンパ節・Capillary refilling time; CRT・股動脈・粘膜色）について説明できる
- 2) 心理・行動面（不安・恐怖）のアセスメントについて説明できる
- 3) 記録・報告の技術について説明できる
- 4) 記録の種類（Problem oriented system; POSを含む）について説明できる
- 5) 記録・報告の条件（情報開示を含む）について説明できる

(4) 動物を飼養する環境を整える技術

一般目標：

看護援助が必要な動物を飼養するのに適切な必要な環境を整えるために必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 対象および目的に応じた環境の調整（温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、プライバシー保護安心）について説明できる
- 2) 対象および目的に応じた入院室、ケージの整備について説明できる

(5) 動物の生活を援助するための技術

一般目標：

看護援助を必要とする動物に対して、摂食や排泄といった日常的な行動に関わる援助を提供するために必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 対象動物にとっての健康な食生活について説明できる
- 2) 栄養状態の評価について説明できる
- 3) 摂食行動のアセスメントと援助方法について説明できる
- 4) 栄養管理の基礎を説明できる
- 5) 栄養の補給法（経管栄養法、経静脈栄養法）について説明できる
- 6) 排泄行動のアセスメントと援助方法について説明できる
- 7) 排泄物の観察について説明できる
- 8) 自然な排泄を促す援助方法について説明できる
- 9) 強制的な排泄（浣腸・導尿）に関する技術について説明できる
- 10) 外科的排泄障害について説明できる
- 11) 清潔行動のアセスメントと援助方法について説明できる
- 12) 身体各部の清潔の援助方法（シャンプー、基本的グルーミング（耳掃除、爪きり、肛門嚢処置）、清拭、口腔内清潔）について説明できる
- 13) 褥創の予防および処置について説明できる
- 14) 休息・睡眠状態のアセスメントと援助方法について説明できる
- 15) 安楽な休息・睡眠を促す援助方法について説明できる

(6) 診療記録

一般目標：

獣医療ならびに動物看護を適切に実施するために必要な各種記録について、その意義や作製方法および保管について必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 診察記録の作成・記載および保管について説明できる
- 2) 各種検査記録の作成・記載および保管について説明できる
- 3) 看護記録の作成・記載および保管について説明できる
- 4) 獣医師法に基づく診療記録（診療簿および検案簿）の保存義務について説明できる

（7）診察時に必要な補助

一般目標：

診察時に必要となる獣医師への補助、あるいは対象動物および飼い主に向けての対応を適切に行うための知識を修得する。

到達目標：

- 1) 診察時における動物看護師の役割について説明できる
- 2) 対象動物および飼い主の心理について説明できる
- 3) 診察に必要な器具類の準備について説明できる
- 4) 注射器および特殊機器の取扱い方法と管理について説明できる

（8）侵襲的処置の介助技術

一般目標：

治療あるいは検査等を目的に行われる処置のうち侵襲を伴う、あるいはその可能性がある処置を介助するために必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 治療・処置時における動物看護師の役割について説明できる
- 2) 治療・処置時の対象動物の看護について説明できる
- 3) 穿刺・洗浄・吸引について説明できる
- 4) 酸素吸入について説明できる
- 5) 包帯法と創傷・褥瘡の管理について説明できる
- 6) 各種カテーテル挿入について説明できる
- 7) 化学療法について説明できる
- 8) 強制給餌とチューブフィーディングについて説明できる

(9) 与薬の援助技術

一般目標：

動物への与薬を適切に実施するために必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 薬剤の取り扱いについて説明できる
- 2) 各薬剤の作用・投与量・投与方法を説明できる
- 3) 各種投与方法について説明できる
- 4) 各薬剤の副作用とその徴候・禁忌を説明できる

(10) 麻酔・鎮静処置に関わる技術

一般目標：

動物に麻酔あるいは鎮静処置を施す際に必要となる知識を修得する。

到達目標：

- 1) 麻酔あるいは鎮静処置時における動物看護師の役割について説明できる
- 2) 麻酔あるいは鎮静処置の適応とリスクについて説明できる
- 3) 麻酔あるいは鎮静処置に特有の問診について説明できる
- 4) 麻酔あるいは鎮静処置前に実施される検査について説明できる
- 5) 注射麻酔・鎮静に関わる手技（局所麻酔含む）について説明できる
- 6) 吸入麻酔に関わる手技について説明できる
- 7) 導入時・覚醒時のリスクと対処について説明できる
- 8) 麻酔看視項目（心拍数・呼吸数・体温・血圧・麻酔ガス濃度・酸素飽和度・二酸化炭素濃度等）の意義について説明できる
- 8) 麻酔・鎮静記録の作成・記載および保存について説明できる
- 9) 麻酔あるいは鎮静処置に伴う疼痛管理の意義について説明できる

(11) 輸液に関わる技術

一般目標：

動物に対して輸液を実施する際に必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 輸液処置時における動物看護師の役割について説明できる
- 2) 輸液の適応とリスクについて説明できる
- 3) 輸液計画について説明できる
- 4) 各種輸液剤の適応や特性について説明できる
- 5) 輸液に関わる手技について説明できる
- 6) 留置針設置の準備と手順について説明できる
- 7) 輸液処置中のモニタリングについて説明できる

(12) 輸血に関わる技術

一般目標：

動物に対して輸血を実施する際に必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 輸血処置時における動物看護師の役割について説明できる
- 2) 輸血の適応とリスクについて説明できる
- 3) クロスマッチ試験と血液型について説明できる
- 4) 輸血計画について説明できる
- 5) 各種輸血製剤の適応や特性について説明できる
- 6) 輸血に関わる手技について説明できる
- 7) 輸血による副反応を説明できる

(13) 救命救急処置に関わる技術

一般目標：

動物に対して救命救急処置を実施する際に必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 生命徴候のアセスメントと救命方法について説明できる
- 2) 動物の呼吸を楽にする姿勢を説明できる
- 3) 循環管理について説明できる
- 4) 保温について説明できる
- 5) 止血法について説明できる
- 6) 気管内挿管について説明できる
- 7) 心肺蘇生法について説明できる

(14) 死の看取りに関わる技術

一般目標：

動物が死亡した際の看取りに必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 危篤時の動物に対するケアについて説明できる
- 2) 死亡した動物に対するケアについて説明できる

講義科目 3-1-目標 5

動物外科看護技術

全体目標

動物への外科的治療を補助するために必要な基礎知識を学び、その知識に裏付けられた外科看護技術を修得する。特に術前準備から術中補助、術後管理まで系統的に理解し、理論的で安全な手術実施のための援助技術に関わる知識を修得する。

(1) 動物外科看護学

一般目標：

動物外科看護に関する基本的な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 動物外科看護の基本原則について説明できる
- 2) 創傷の種類と創傷治癒の過程を理解し説明できる
- 3) ドレーンの装着方法を理解し、ドレーン装着時の管理について説明できる
- 4) 骨折の管理について説明できる
- 5) 腫瘍外科の基本原則について説明できる

(2) 手術チームの準備

一般目標：

無菌操作に必要な術者、手術介助者の準備法について修得する。

到達目標：

- 1) 手術時の手洗い法を説明できる
- 2) 手術時の服装、手術着の着用法について説明できる
- 3) 手術用手袋の装着法を説明できる

(3) 術前準備

一般目標：

術前に必要な動物に対する準備について必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 手術前の手術室の準備について説明できる
- 2) 手術前の動物の状態について確認しなければならない項目を説明できる
- 3) 手術直前に必要な動物に対する準備について説明できる
- 4) 術前動物の皮膚の前処置について説明できる
- 5) 手術時の動物の適切なポジショニングについて説明できる
- 6) 術野の消毒法について説明できる
- 7) 適切な術野の準備について説明できる

(4) 手術助手

一般目標：

手術助手に必要な知識・手技を修得する。

到達目標：

- 1) 直接介助者と間接介助者の役割、注意点を説明できる
- 2) 器械台の準備について説明できる

(5) 縫合材料と縫合法

一般目標：

縫合材料、縫合法に関する基本的な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 縫合材の分類について説明できる
- 2) 一般的な縫合材の種類および特性について説明できる
- 3) 縫合糸の代替え品について説明できる
- 4) 縫合糸の選択基準を説明できる
- 5) 縫合針の種類および特性について説明できる
- 6) 一般的な縫合法について説明できる

(6) 外科器具

一般目標：

外科器具に関する基本的な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 外科器具の手入れ方法と維持管理について説明できる
- 2) 一般的な手術器具とその使用法について説明できる
- 3) 整形外科器具とその使用法について説明できる
- 4) 一般的な手術用器具セットの中身とその包装について説明できる
- 5) 手術着・タオル・ドレープの準備について説明出来る
- 6) 手術器材の滅菌法とその原理について説明できる
- 7) 手術室に必要な機器・設備について説明できる

(7) 創傷管理の援助技術

一般目標：

創傷の管理方法およびその援助技術について修得する。

到達目標：

- 1) 創傷の管理方法およびその援助技術について説明できる
- 2) 創傷の処置について説明できる
- 3) 褥創の予防方法および対処について説明できる

(8) 活動・運動の援助技術

一般目標：

活動・運動の援助方法について修得する。

到達目標：

- 1) 活動・運動能力に対するアセスメントができ、その援助方法について説明できる
- 2) 対象動物の体位変換について説明できる
- 3) リハビリテーションと理学療法について説明できる

講義科目
専門分野 II

科目番号	科目	項目一覧	掲載頁
4-1-目標 1	臨床動物看護学<総論>	47-79	69-70
4-1-目標 2	臨床動物看護学<各論>	50-54	71-76
～4-2-目標 1			

講義科目 4-1-目標 1

臨床動物看護学<総論>

全体目標：

動物の健康状態を、健康時、急性期、慢性期および終末期の 4 病態に区分して、それぞれの健康レベルに応じて必要とされる様々な診断・検査の補助ならびに具体的な看護技術について理解する。また、周術期の看護の特性と症状別の看護の特性を理解し、具体的な看護援助を理解する。

(1) 健康の保持・増進、疾病の予防に向けた動物看護

一般目標：

健康の保持・増進、疾病の予防に向けて、対象の身体的側面を的確に把握し、必要な看護を見出すための知識・技術・態度を修得する。

到達目標

- 1) ヘルスアセスメントの意義と目的について説明できる
- 2) フィジカルアセスメントの意義と目的について説明できる
- 3) フィジカルアセスメントの方法について説明できる
- 4) 定期健康診断のすすめと飼い主への支援方法を説明できる
- 5) ストレス状況と要因のアセスメントについて説明できる
- 6) ストレスの緩和、解決方法の指導について説明できる

(2) 経過に基づく動物看護

一般目標

対象の健康レベルを把握し、その健康状態に応じた動物看護実践に必要な能力と態度を修得する。

到達目標

- 1) 急性期にある対象の身体状態を把握し、必要な動物看護援助を説明できる
- 2) 慢性期にある対象の身体状態を把握し、必要な動物看護援助を説明できる。
- 3) 障害をもつ対象の身体状態を把握し、必要な動物看護援助を説明できる
- 4) 終末期にある対象の身体状態を把握し、必要な動物看護援助を説明できる

(3) 周術期の動物看護

一般目標

周術期にある動物の生活状況の把握と健康障害、症状・治療が日常生活の規制の程度と身体的苦痛の状況を理解し、状況の変化に応じた必要な動物看護援助を理解する。

到達目標

- 1) 術前動物看護の役割を理解し、必要な動物看護援助を説明できる
- 2) 術中動物看護の役割を理解し、必要な動物看護援助を説明できる
- 3) 術直後動物看護の役割を理解し、必要な動物看護援助を説明できる
- 4) 術後動物看護の役割を理解し、必要な動物看護援助を説明できる

(4) 症状別の動物看護

一般目標：

症状の定義や特徴をふまえて、症状とは何であるかを理解し、症状別の考え方における動物看護の役割、必要な援助について理解する。

到達目標

- 1) 代表的な症状（キーワード参照）の定義について説明できる
- 2) 代表的な症状の出現形態とメカニズムについて説明できる
- 3) 代表的な症状に対する治療について説明できる
- 4) 代表的な症状に対する援助について説明できる

講義科目 4-1-目標 2

臨床動物看護学<各論>

全体目標：

疾病に伴う多様な機能障害について、それを引き起こす疾患ならびにその病態生理を理解し、さらに症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を修得する。そして得た知識を基に各々の機能障害を持つ動物に対してどのような内容の看護を提供すべきか評価・判断した上で、実践方法を導き出せる思考を修得する。

(1) 各種機能の障害を持つ動物の看護

一般目標：

各種機能の障害について、その症状、病態生理を学ぶことにより疾患を理解し、必要な検査・治療・処置に関する基本的な知識を修得する。また、各種機能障害に関する知識を基に、症状、検査、動物に対する援助方法ならびに看護過程の展開方法を修得する。

到達目標：

- 1) 各種機能障害を起こす疾患について理解し、概要を説明できる
- 2) 各種機能障害時の症状・病態生理を説明できる
- 3) 各種機能障害時の検査・処置・治療の概要を説明できる
- 4) 各種機能障害時の症状に対する適切な看護援助について説明できる
- 5) 各種機能障害時の検査・処置・治療を受ける動物への適切な援助について説明できる
- 6) 疾患を持つ動物への適切な援助について説明できる
- 7) 各種機能障害を持つ動物への看護過程の展開について説明できる

(2) 各種機能障害を起こす代表的な症候・疾患

1) 呼吸器機能障害

猫の上部気道疾患、猫カリシウィルス感染症、鼻腔内腫瘍、慢性鼻炎、軟口蓋過長、喉頭炎、気管虚脱、気管損傷、気管支拡張症、慢性気管支炎、肺炎、誤嚥性肺炎、肺水腫、肺高血圧症、肺腫瘍、ケンネルコフ、猫の喘息、犬糸状虫症、気管腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍、喉頭腫瘍

2) 循環機能障害

心室中隔欠損、心房中隔欠損、動脈管開存、卵円孔開存、ファロー四徴症、心筋炎、心内膜炎、心膜炎、心臓弁膜症、犬糸状虫症、心筋症（拡張型心筋症、肥大型心筋症、拘束型心筋症）、心筋梗塞、僧帽弁膜症、僧帽弁腱索断裂、弁疾患（僧帽弁閉鎖不全、僧帽弁逆流、三尖弁閉鎖不全、三尖弁逆流、大動脈弁疾患、大動脈弁逆流、肺動脈弁疾患、肺動脈弁逆）、不整脈（房室ブロック、心室細動、心房細動、洞性除脈、洞性頻脈、上室期外収縮、除脈性不整脈、心室期外収縮、心停止）、肺動脈狭窄、肺動脈血栓、血栓塞栓症、心タンポナーゼ、腹膜横隔膜ヘルニア、高血圧（本態高血圧、腎性高血圧、肺高血圧症）、左心不全、右心不全、うっ血性心不全、心臓腫瘍、血管・リンパ管腫瘍

3) 栄養摂取・代謝機能障害

食欲不振、不正咬合、開口障害、嚥下障害、吐出、嘔吐、下痢、蛋白喪失性腸症（PLE）、便秘、黄疸、口蓋裂、口内炎、歯肉炎、歯周炎、食道炎、食道狭窄、食道内異物、巨大食道症、右大動脈遺残、胃炎、胃潰瘍、胃内異物、幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群（GDV）、腸炎、炎症性腸疾患（IBD）、抗菌剤反応性下痢（ARD）、食物不耐性、腸リンパ管拡張症、腸閉塞、腸捻転、腸重積、直腸脱、肝炎、肝硬変、脂肪肝（肝リピドーシス）、門脈体循環シャント、肝性脳症、胆管炎、胆嚢粘液嚢腫、膵炎、膵外分泌不全（EPI）、口腔内腫瘍、唾液腺腫瘍、食道腫瘍、胃腫瘍、腸腫瘍、肝臓腫瘍、膵臓外分泌部腫瘍

4) 内部環境調節機能障害

高ナトリウム血症、低ナトリウム血症、高カリウム血症、高カルシウム血症、低カルシウム血症、高リン血症、低リン血症、高コレステロール血症、高脂血症、脱水、水中毒、先端巨大症、甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、下垂体性副腎皮質機能亢進症、クッシング症候群、アジソン病、尿崩症、上皮小体機能亢進症（二次性・続発性）、糖尿病、高血糖、ビタミンA過剰症、

ビタミンD過剰症、タマネギ中毒、下垂体腫瘍、甲状腺腫瘍、上皮小体腫瘍、副腎腫瘍、睪臓内分泌部腫瘍

5) 生体防御機能障害

ヘモプラズマ症、バベシア症、レプトスピラ症、ハインツ小体性溶血性貧血、タマネギ中毒、犬糸状虫症、播種性血管内凝血（DIC）、血栓塞栓症、猫白血病ウイルス（FeLV）感染症、猫免疫不全ウイルス（FIV）感染症、鉄欠乏性貧血、慢性疾患に伴う貧血、腎性貧血、赤芽球癆、猫汎白血球減少症、フォンヴィレブランド病、血小板無力症、血友病 A、血友病 B、ビタミンK 欠乏症、免疫介在性溶血性貧血（IMHA）、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、免疫介在性血小板減少症（IMT）、再生不良性貧血、再生性貧血、全身性エリテマトーデス（SLE）、アトピー性皮膚炎、医原性クッシング症候群、円板状エリテマトーデス（DLE）、エーラス・ダンロス症候群、外耳炎、好酸球性肉芽腫、硬蹠症、光線過敏症、肢端舐性皮膚炎、湿疹、褥創、脂漏症、心因性脱毛症、深在性膿皮症、蕁麻疹、多形紅斑、チェディアック・東症候群、天疱瘡、熱傷、ノミアアレルギー性皮膚炎、皮下膿瘍、表在性真菌症、表在性膿皮症、蜂窩織炎、毛包炎、薬疹、脱毛症 X、猫アレルギー性粟粒性皮膚炎、猫好酸球性肉芽腫、疣贅、疥癬、犬穿孔ヒゼンダニ症、猫小穿孔ヒゼンダニ症、鉤虫性皮膚炎、ツメダニ症、毛包虫症、皮膚クリプトコッカス症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、耳ヒゼンダニ症、シラミ症、ハジラミ症、ノミ症、血液・骨髄腫瘍、皮膚・付属器腫瘍

6) 感覚機能障害

結膜炎、角膜炎、角膜穿孔、デスメ瘤、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、核硬化症、水晶体脱臼、網膜症、網膜剥離、異所性睫毛、睫毛重生、睫毛乱生、眼瞼下垂、眼瞼外反、眼瞼内反、眼振、斜視、乾性角結膜炎、流涙症、中耳炎、内耳炎、外耳炎、難聴、眼腫瘍、耳道腫瘍

7) 神経・運動機能障害

水頭症、肝性脳症、壊死性髄膜脳炎、特発性てんかん、発作性転倒、脳震盪、脳卒中、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア（ハンセンⅠ型、ハンセンⅡ型）、変形性脊椎症、馬尾症候群、脊椎損傷、骨折、完全骨折、骨端骨折、骨幹骨折、螺旋骨折、裂離骨折、不全骨折、若木骨折、亀裂骨折、嵌入骨折、圧迫骨折、粉碎骨折、複雑骨折、腐骨、病的骨折、成長板早期閉鎖、脱臼、亜脱臼、膝蓋骨脱臼、内方脱臼、外方脱臼、

前方脱臼、後方脱臼、前十字靭帯断裂、後十字靭帯断裂、捻挫、変形性関節症、骨関節炎、骨軟骨炎、関節リュウマチ、離断性骨軟骨炎、レッグペルテス病、腱断裂、腱鞘炎、骨軟化症、骨粗しょう症、骨形成不全症、軟骨軟化症、重症筋無力症、骨腫瘍、軟部組織腫瘍、神経系腫瘍

8) 排泄機能障害

腎盂腎炎、腎性続発性上皮小体機能亢進症、腎性尿崩症、腎性貧血、腎性骨異栄養症、慢性腎不全 (CRF)、急性腎不全 (ARF)、糖尿病性腎症、尿路感染症 (上部、下部)、尿石症、腎結石症、尿管結石症、膀胱炎、特発性膀胱炎、猫下部尿路疾患 (FLUTD)、膀胱破裂、異所性尿管、尿道破裂、尿道炎、尿路閉塞症、上位運動ニューロン性排尿障害、下部運動ニューロン性排尿障害、排尿筋括約筋協調運動障害、ホルモン反応性尿失禁、エチレングリコール中毒、尿毒症、レプトスピラ症、前立腺炎、前立腺肥大、前立腺膿瘍、前立腺嚢胞、便秘、巨大結腸症、直腸ポリープ、直腸狭窄、直腸閉塞、直腸脱、鎖肛、肛門脱、会陰ヘルニア、腎腫瘍、膀胱腫瘍、肛門部腫瘍、前立腺腫瘍

9) 繁殖機能障害

精巣炎、精子減少症、奇形精子症、潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大、前立腺嚢胞、前立腺膿瘍、子宮蓄膿症、偽妊娠、流産、早産、難産、死産、犬ブルセラ症、子宮捻転、膣脱、胎子失位、胎子過大、骨盤狭窄、陣痛微弱、乳腺炎、雌性生殖器腫瘍、雄性生殖器腫瘍、乳腺腫瘍

(3) 担がん動物の看護

一般目標：

がんについて、その症状、病態生理を学ぶことにより疾患を理解し、必要な検査・治療・処置に関する基本的な知識を修得する。これを基に、動物に対する援助方法ならびに看護過程の展開方法を修得する。

到達目標：

- 1) がんの成り立ちについて説明できる
- 2) がんの分類、臨床ステージについて説明できる
- 3) がんの診断のための検査、その治療、必要な処置について説明できる
- 4) がん性疼痛について説明できる
- 5) がん性悪液質について説明できる
- 6) 目標に合わせた担がん動物の治療法について説明できる

- 7) 担がん動物に対する一般的な治療法について説明できる
- 8) 化学療法的一般原則、薬剤の毒性について説明できる
- 9) がん治療を受けている動物に対する看護援助について説明できる
- 10) 担がん動物の適切な栄養管理について説明できる
- 11) がん性疼痛への援助について説明できる
- 12) 担がん動物への看護過程の展開について説明できる

(4) 高齢動物とその看護の特徴

一般目標：

高齢動物の特徴を理解し、高齢期の対象特性と健康特性を統合させた動物看護に必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 高齢動物の身体の変化について説明できる
- 2) 安全な生活環境への支援について説明できる
- 3) 高齢動物に対する健康の保持増進と予防活動の重視について説明できる
- 4) 死にいたるプロセスについて説明できる
- 5) 高齢動物に対する継続ケアと在宅生活への看護について説明できる
- 6) 飼い主との協働と飼い主による看護について説明できる

(5) 高齢動物の看護に関わる技術

一般目標：

高齢動物看護における観察と援助を理解し、実践するために必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 加齢変化の正常と異常を観察する技術について説明できる
- 2) 高齢動物における生活障害の程度と範囲を観察する技術について説明できる
- 3) 高齢動物の身体徴候を観察する技術について説明できる
- 4) 加齢に伴う身体的徴候と看護について説明できる
- 5) 高齢動物に必要な飼育環境について説明できる
- 6) 高齢動物の運動器疾患について説明できる
- 7) 高齢動物における排泄の調節障害について説明できる
- 8) 起立困難な状態・廃用性症候群について説明できる
- 9) 高齢動物の認知障害を説明できる

実習・演習科目

実習・演習

科目番号	科目	項目一覧	掲載頁
5-1	基礎動物看護技術実習Ⅰ		78
5-2	基礎動物看護技術実習Ⅱ		79-83
5-3	動物外科看護技術実習		84-85
5-4	動物臨床検査学実習		86
5-5	動物栄養管理学実習		87-88
5-6	臨床動物看護学演習		89
5-7	総合臨床実習		90-93

実習・演習科目 5-1

基礎動物看護技術実習 I

全体目標

動物のくらしや様々な環境条件を踏まえた上で、動物の適切な飼養方法を理解するだけでなく、疾病予防も含めて動物の健康を保持し、衛生的かつ安全に飼養管理ができるよう具体的な看護技術を修得する。

(1) 動物の健康保持

一般目標：

動物の健康管理および疾病予防の方法を理解し、様々な環境条件に応じた飼養管理について実践的な看護技術を修得する。

到達目標：

- 1) 動物の健康管理を行い、異変や異常に気づくことができる
- 2) 動物種や動物の状態に適した環境条件を準備できる
- 3) 動物の状態に応じた入院室やケージを整備できる

(2) 衛生・安全管理

一般目標：

感染を予防するための技術および安全を守るための看護技術を修得する。

到達目標：

- 1) 洗浄・消毒・滅菌を実施し、感染症予防を心がけることができる
- 2) 検疫・隔離の方法を実行できる
- 3) 感染コントロールを実行できる
- 4) 安全管理対策を遂行できる
- 5) 動物飼養管理中の事故の防止に努めることができる

実習・演習科目 5-2

基礎動物看護技術実習Ⅱ

全体目標：

基礎動物看護技術Ⅱで得た知識を基に、その知識に裏付けられた動物看護技術を修得する。特に診察や治療・検査における様々な処置等を適切に実施あるいは補助するために必要な技術を修得する。

(1) 対人関係の技術

一般目標：

適切な動物看護を提供するために必要となる対人関係に関わる技術を修得する

到達目標：

- 1) 動物看護を行う際に関わる全ての人に対して、状況に応じた適切なコミュニケーションができる

(2) 対動物関係の技術

一般目標：

適切な動物看護を提供するために必要となる対動物関係に関わる技術を修得する。

到達目標：

- 1) 動物種に応じた適切な接し方ができる
- 2) 動物を安全に散歩・運動させることができる
- 3) 基本的な保定を実施することができる
- 4) 動物種・動物の状態・処置や検査に合わせた保定を実施することができる

(3) 観察および記録・報告に関わる技術

一般目標：

看護の対象となる動物を観察し、それに基づいてアセスメントを実施するために必要な技術を修得する。さらにそれらを適切に報告し、記録する技術を修得する。

到達目標：

- 1) 身体の状態（フィジカルアセスメント：体温、脈拍・血圧・呼吸・意織・身体計測・全身の外観・体重・Body condition score; BSC・体表リンパ節・Capillary refilling time; CRT・股動脈・粘膜色）について適切にアセスメントできる
- 2) 心理状態、行動面（不安・恐怖）について適切にアセスメントできる
- 3) 適切な記録・報告ができる

(4) 動物を使用する環境を整える技術

一般目標：

看護援助が必要な動物を飼養するのに適切な必要な環境を整えるために必要な技術を修得する。

到達目標：

- 1) 対象および目的に応じて環境調節（温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、安心）ができる
- 2) 対象および目的に応じた入院室、ケージの整備ができる

(5) 動物の生活を援助するための技術

一般目標：

看護援助を必要とする動物に対して、摂食や排泄といった日常的な行動に関わる援助を提供するために必要な技術を修得する。

到達目標：

- 1) 栄養状態を適切に評価できる
- 2) 採食行動を適切にアセスメントし、援助できる
- 3) 排泄行動を適切にアセスメントし、援助できる
- 4) 排泄物を適切に観察できる
- 5) 強制的な排泄（浣腸・導尿）およびその援助を適切に実施できる

- 6) 清潔行動を適切にアセスメントし、援助できる
- 7) 身体各部の清潔に維持できる（シャンプー、基本的グルーミング（耳掃除、爪きり、肛門嚢処置）、清拭、口腔内清潔）
- 8) 褥創の予防および処置を適切に実施できる
- 9) 休息・睡眠状態を適切にアセスメントし、援助できる
- 10) 安楽な休息・睡眠の援助を適切に実施できる

（6）診療記録

一般目標：

獣医療ならびに動物看護を適切に実施するために必要な各種記録について、その意義や作製方法および保管について必要な技術を修得する。

到達目標：

- 1) 適切に看護記録を作成・記載および保管できる

（7）診察時に必要な補助

一般目標：

診察時に必要となる獣医師への補助、あるいは対象動物および飼い主に向けての対応を適切に行うための技術を修得する。

到達目標：

- 1) 診察に必要な器具類を適切に準備できる
- 2) 注射器および特殊器具を適切に取り扱い、管理することができる

（8）侵襲的処置の介助技術

一般目標：

治療あるいは検査等を目的に行われる処置のうち侵襲を伴う、あるいはその可能性がある処置を介助するために必要な技術を修得する。

到達目標：

- 1) 適切な穿刺・洗浄・吸引の介助ができる
- 2) 適切な酸素吸入の介助ができる
- 3) 適切な創傷・褥創の管理ができる
- 4) 適切な各種カテーテルの挿入の介助ができる
- 5) 化学療法実施時に適切な介助ができる
- 6) 強制給餌とチューブフィーディングを適切に実施できる

(9) 与薬の援助技術

一般目標：

動物への与薬を適切に実施するために必要な技術を修得する。

到達目標：

- 10) 適切に薬剤を取り扱うことができる

(10) 麻酔・鎮静処置に関わる技術

一般目標：

動物に麻酔あるいは鎮静処置を施す際に必要となる技術を修得する。

到達目標：

- 1) 麻酔あるいは鎮静処置前に実施される検査の適切な介助ができる
- 2) 注射麻酔・鎮静に関わる手技（局所麻酔を含む）の適切な介助ができる
- 3) 吸入麻酔に関わる手技の適切な介助ができる
- 4) 麻酔看視項目（心拍数・呼吸数・体温・血圧・麻酔ガス濃度・酸素飽和度・二酸化炭素濃度等）を適切にアセスメントできる
- 5) 麻酔・鎮静記録の作成・記載および保存が適切にできる

(11) 輸液に関わる技術

一般目標：

動物に対して輸液をする際に必要な技術を修得する。

到達目標：

- 1) 輸液に関わる手技（留置針の設置を含む）の適切な介助ができる
- 2) 輸液処置中の動物を適切にモニタリングできる

(12) 輸血に関わる技術

一般目標：

動物に対して輸血をする際に必要な技術を修得する。

到達目標：

- 1) 輸血に関わる手技の適切な介助ができる
- 2) 輸血による副反応を適切にモニタリングできる

(13) 救急救命処置に関わる技術

一般目標：

動物に対して救急救命処置を実施する際に必要な知識を修得する。

到達目標：

- 1) 動物に呼吸を楽にする姿勢をとらせることができる
- 2) 適切な動物の体温管理ができる
- 3) 適切な止血法を実施できる
- 4) 気管内挿管を適切に介助できる
- 5) 心肺蘇生を適切に介助できる

実習・演習科目 5-3

動物外科看護技術実習

全体目標

動物外科看護技術学で得た知識を基に、その知識に裏付けられた動物外科看護技術を修得する。特に術前準備から術中補助、術後管理まで系統的に理解し、理論的で安全な手術実施のための援助技術を修得する。

(1) 手術チームの準備

一般目標：

無菌操作に必要な術者、手術介助者の準備法について修得する。

到達目標：

- 1) 手術時の手洗いを適切に実施できる
- 2) 手術着を適切に着用できる
- 3) 手術用手袋を適切に着用できる

(2) 手術準備

一般目標：

術前に必要な患者動物の準備について必要な技術を修得する。

到達目標：

- 1) 手術前の手術室の準備を適切に実施できる
- 2) 手術前の動物の状態を適切に観察できる
- 3) 手術直前に必要な動物の準備を適切に実施できる
- 4) 術前動物の皮膚の前処置を適切に実施できる
- 5) 手術時の動物の適切なポジショニングを適切に実施できる
- 6) 術野の準備を適切に実施できる

(3) 手術助手

一般目標：

手術助手に必要な手技を修得する。

到達目標：

- 1) 直接介助者と間接介助者の役割を適切に果たすことができる
- 2) 器械台の準備を適切に実施できる

(4) 外科器具

一般目標：

外科器具に関する基本的な技術を修得する。

到達目標：

- 1) 外科器具の手入れと維持管理が適切に実施できる
- 2) 一般的な手術器具を適切に取り扱うことができる
- 3) 整形外科器具を適切に取り扱うことができる
- 4) 一般的な手術用器具セットの準備とその包装を適切に実施できる
- 5) 手術着・タオル・ドレープの準備を適切に実施できる
- 6) 手術器材を適切に滅菌できる
- 7) 手術室に必要な機器・設備を適切に管理し、準備できる

(5) 創傷管理の援助技術

一般目標：

創傷の管理方法およびその援助技術について修得する。

到達目標：

- 1) 創傷の管理およびその援助を適切に実施できる
- 2) 創傷を適切に実施できる
- 3) 褥創の予防および対処を適切に実施できる

実習・演習科目 5-4

動物臨床検査学実習モデル・コア・カリキュラム

全体目標

臨床現場で実施される代表的な検体検査と生体検査について、使用する機材や準備の方法を理解し、実施または補助できる技術を修得する。

(1) 検体検査

一般目標：

代表的な検体検査について、使用する機材や準備の方法を理解し、実施または補助できる技術を修得する。

到達目標：

- 1) 採血のための準備、保定、駆血ができる
- 2) 血漿、血清を分離できる
- 3) 血液塗抹標本作製、染色できる
- 4) 血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる
- 5) 尿検査を実施し、所見を記録できる
- 6) 糞便検査を実施し、虫卵および原虫を検出できる
- 7) 顕微鏡および遠心分離器を正しく操作できる

(2) 生体検査

一般目標：

代表的な生体検査について、使用する機材や準備の方法を理解し、実施または補助できる技術を修得する。

到達目標：

- 1) 心電図検査を実施し、結果を記録できる
- 2) 胸腹部、四肢、脊椎のX線撮影のための保定ができる
- 3) 超音波検査のための保定ができる
- 4) 内視鏡のスコープを洗浄、消毒できる
- 5) 脊髄神経と脳神経の神経学的検査所見を記録できる
- 6) シルマー、フルオレセイン試験を実施でき、眼底検査の補助ができる
- 7) 皮膚搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査を実施できる

実習・演習科目 5-5

動物栄養管理学実習モデル・コア・カリキュラム

全体目標

動物の栄養管理に関わる手技・技術を修得させる。栄養評価 (Resting Energy Requirement; RER (安静時エネルギー要求量)、Maintenance Energy Requirement; MER (維持期エネルギー要求量)、Body condition score; BCS) を実践する。栄養指導 (エネルギー要求計算、食品成分、給餌方法) について実践する。疾病動物に対する栄養管理を獣医師に提案でき、飼い主への説明ができる。

(1) 基礎栄養、栄養評価法、フード、栄養指導

一般目標：

健全な動物に対する栄養管理、指導ができる。

到達目標：

- 1) エネルギー要求量 (Resting Energy Requirement; RER (安静時エネルギー要求量)、Maintenance Energy Requirement; MER (維持期エネルギー要求量)) を計算し、適したフードを選択しその給与量を計算できる。
- 2) ペットフードのラベルを理解し飼い主に説明できる。フードに含まれる成分の働きを理解し説明できる。
- 3) 健康な動物に適切なフードを選択でき、給与量、給与方法、注意点を飼い主に説明することができる。
- 4) ボディコンディションスコア (Body condition score; BCS) を取り、状況を飼い主に説明できる。
- 5) 肥満動物における減量プログラムを作成・計算し、飼い主に説明できる。

(2) 疾患と栄養の関係、疾病動物の栄養管理

一般目標：

疾病動物に対する、フードの選択、飼い主への説明ができるとともに、入院動物およびチューブダイエットが必要な動物の管理ができる。

到達目標：

- 1) 疾病ごとのフード選択することができ、選択したフード、給与量を獣医師に提案でき、飼い主に理解させることができる。
- 2) 疾病動物個々に適したフードを計算し、適切に調整できる。
- 3) チューブ設置の補助が出来、チューブダイエットの調整、衛生管理ができる。

実習・演習科目 5-6

臨床動物看護学演習

全体目標

機能障害を持つ動物の看護への看護実践をシミュレートする。

一般目標：

健康レベル、発達特性、健康特性、機能障害を理解し、事例を通して、動物看護の特性と役割について理解する。

到達目標：

- 1) 事例にある動物の生活と健康について理解する
- 2) 事例にある動物の健康問題と動物看護の役割を理解する
- 3) 事例を通して動物看護アプローチの基本を理解する
- 4) 事例にある動物への健康を促すための動物看護技術を考えることができる

実習・演習科目 5-7

総合臨床実習

全体目標：

動物病院で働く他職種との連携、獣医療チームにおける動物看護師の役割を理解し、健康障害をもつ動物を受持ち、対象の特性と動物看護の必要性への理解を深めると共に、動物看護過程を展開する基礎能力および動物看護師としての必要な態度を身につける。

(1) 動物病院で療養する動物の生活

一般目標：

対象動物が療養する環境と動物看護の実際を理解する。

到達目標：

- 1) 動物病院施設の概要・設備を知る
- 2) 対象動物が療養する環境（物的・人的）を知る
- 3) 対象動物の一日の過ごし方を知る
- 4) 対象動物に行われている援助を知る
- 5) 対象動物の援助に参加する
- 6) 健康障害や入院により生じている患者動物の思いを知る
- 7) 動物種に応じた対応を知る

(2) 飼い主家族との関係

一般目標：

飼い主に対して積極的な関心を持ち、適切な関係を築くことができる

到達目標：

- 1) 飼い主を尊重した会話ができる
- 2) 飼い主が話しやすい雰囲気作りができる
- 3) 飼い主にわかりやすい言葉での説明や助言ができる
- 4) 飼い主に合った意思伝達方法を見出し、円滑なコミュニケーションができる

(3) 対象動物の個別状況を理解

一般目標：

対象動物の特性および健康状態を考慮に入れて、個別的状況を総合的に理解できる。

到達目標：

- 1) 対象動物の生活状況が健康障害におよぼす影響を説明できる
- 2) 対象動物の症状、治療が患者動物におよぼす日常生活の寄生の程度と身体的苦痛の状況を説明できる。
- 3) 症状、検査、治療、予後に対する飼い主家族の受け止め方を説明できる
- 4) 入院・治療が患者動物と飼い主家族におよぼす影響を説明できる
- 5) 対象動物の健康障害についてこれまでの経過、既往歴を考慮し、今後の回復過程を説明できる
- 6) 経過に伴って、健康障害の程度、日常生活の制約、検査・治療から起こりうる二次的な健康障害、および術後合併症を説明できる

(4) 動物看護過程の実践

一般目標：

対象動物に対する理解に基づき動物看護上の問題・ニーズを特定し、動物看護計画の立案、実践、評価できる

到達目標：

- 1) 対象動物の状況の変化に応じて、顕在的・潜在的な看護上の問題・ニーズを挙げることができる
- 2) 対象動物の援助の内容・方法を具体的に立案できる
- 3) 対象動物の状況に応じて動物看護計画を実践・評価し、必要な修正ができる
- 4) 対象動物について、必要な記録ができる
- 5) 対象動物が呈する症状に対する援助ができる
- 6) 検査を受ける動物の援助ができる
- 7) 変化した身体構造・機能での日常生活を送れるように、回復状態に合わせた訓練・指導ができる

(5) 動物看護師としての職業倫理

一般目標：

動物看護専門職を目指すものとしての責任を自覚し、患者動物の権利を擁護し、倫理観に基づいて行動できる。

到達目標：

- 1) 動物の生命の尊重と福祉の向上に配慮できる
- 2) 飼い主への説明と同意の必要性について考えることができる
- 3) 対象動物・飼い主に関するプライバシーへの配慮ができる
- 4) 対象動物・飼い主について知り得た情報の秘密を守ることができる
- 5) 対象動物の安全性（感染予防を含む）を考慮した行動がとれる
- 6) 自己の健康管理ができる
- 7) 動物看護学生としてふさわしい態度で実習できる
- 8) 動物看護学生として自分の行動に責任を持つことができる

(6) 他職種との連携と獣医療チームの一員

一般目標：

患者動物に関わる獣医療従事者と連携の重要性を理解し、チームの一員として、協働しながら行動できる。

到達目標：

- 1) 対象動物・飼い主に関わる獣医療従事者の役割を説明できる
- 2) 動物看護師、関係従事者に適切な連絡・調整ができる
- 3) 動物看護師の役割として必要な獣医療チームの連携について考えることができる
- 4) 急変時速やかに報告できる
- 5) 災害時・突発事故時場面を想定し動物看護師の役割・対応を説明できる

(7) 専門職業人としての姿勢

一般目標：

専門職者として、自己の成長と動物看護の向上のために主体的に学び続ける姿勢を身につける。

到達目標：

- 1) 学生間においてメンバー・リーダーの役割を担うことができる
- 2) カンファレンスを企画し、積極的に参加できる
- 3) 動物看護学生としての自覚を持ち、協調性のある行動がとれる
- 4) 臨床実習の体験の意味を考え、自分の言葉で述べるができる
- 5) 多様な機会を活用し、積極的に動物看護実践を行うことができる
- 6) 臨床実習過程での多様な学習体験を動物看護の概念と結びつけて考えることができる